

## ミクロ経済学特論

(通年／4単位)

飯田・千葉・内山・武者

### ●テーマ

現代のトピックを例題に用いながら上級ミクロ経済学の基礎を習得する。

### ●授業概要

この講義では、いかなる経済問題を研究課題にするにせよ、ミクロ経済学の考え方や分析手法は基礎的要件である。講義以外では学外研修と招聘講師のセミナーも時間外で企画されるので積極的な参加を前提とする。

研究テーマについて経済モデルで考えられるセンスを磨き、ERE 経済学検定試験で S ランクの成績が取得できる基礎知識を修得する。具体的には下記の基本テーマを取り上げ基礎理論の修得を目的とする。

適時テキストを使用しますが、本文の内容の理解はもちろん、理論に習熟するために多くの練習問題を演習し、応用面も考える。なお、4名の専任教員がそれぞれの分野のテーマを担当する。

### ●到達目標

- ・上級ミクロ経済学の基本的内容を理解する。
- ・ERE 経済学検定試験等の外部評価でミクロ経済学の部分で最高ランクの S 評価を得る。

### ●授業計画

- 第1回 顕示選考と消費者行動
- 第2回 効用と消費者選択
- 第3回 効用最大化と限界効用均等の法則
- 第4回 需要曲線と弾力性
- 第5回 生産関数と費用最小化
- 第6回 規模に関する収穫一定と技術的限界代替率
- 第7回 費用関数・供給曲線・弾力性
- 第8回 利潤と所得分配
- 第9回 競争均衡
- 第10回 独占競争均衡
- 第11回 寡占競争均衡
- 第12回 部分均衡分析
- 第13回 一般均衡分析
- 第14回 厚生経済学の第1基本定理
- 第15回 厚生経済学の第2基本定理
- 第16回 外部性とピグー税
- 第17回 交渉による外部性とコースの定理
- 第18回 公共財とリンダール均衡
- 第19回 同時手番のゲーム
- 第20回 ナッシュ均衡
- 第21回 寡占競争 (数量競争・価格競争)
- 第22回 クールノー均衡
- 第23回 ベルトラン均衡
- 第24回 時間を通じたゲームと戦略の信頼性
- 第25回 部分ゲーム完全均衡
- 第26回 シュタッケルベルク均衡
- 第27回 コミットメント
- 第28回 保険とモラル・ハザード
- 第29回 逆淘汰とシグナリング
- 第30回 市場の恩恵を受けるのは誰か? 保証源と社会正義

### ●事前学習

与えられた内容の課題をしっかりと予習すること。

### ●事後学習

演習問題など、理解を深めるための復習をしっかりとすること。

### ●成績評価

平常点で評価する。ERE 経済学検定試験等の外部評価も考慮する。

### ●テキスト

- \* 神取道宏『ミクロ経済学の力』: 日本経済評論社, 2014
  - \* 西村和雄『ミクロ経済学』: 東洋経済新報社, 2009
- 適時、最適と思われるテキストや論文に変更することがある。

### ●参考書・参考資料等

- \* Varian, R.H., *Microeconomic Analysis*, W.W.Norton, 1984,
- \* Mas-Colell, A., Whinston, M., and J.Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995,

### ●備考

特になし。

## マクロ経済学特論

(通年／4単位)

飯田・千葉・内山・武者

### ●テーマ

現代のトピックを例題に用いながら上級マクロ経済学の基礎を習得する。

### ●授業概要

経済学を今まで学んでこなかった学生が理解でき、その後の修士論文作成にも役立つように、マクロ経済学の最新の成果を基礎から応用まで幅広く講義する。理論経済学分野の専任教員4名がその専門分野を生かして分担講義する。

講義以外では学外研修と招聘講師のセミナーも時間外で企画されるので積極的な参加を前提とする。

この講義では、いかなる経済問題を研究課題にするにせよ、マクロ経済学の考え方や分析手法は基礎的要件である。研究テーマについて経済モデルで考えられるセンスを磨き、ERE 経済学検定試験で S ランクの成績が取得できる基礎知識を修得する。具体的には下記の基本テーマを取り上げ基礎理論の修得を目的とする。適時テキストを使用しますが、本文の内容の理解はもちろん、理論に習熟するために多くの練習問題を演習し、応用面も考える。なお、4名の専任教員がそれぞれの得意分野のテーマを担当する。

### ●到達目標

- ・上級マクロ経済学の基本的内容を理解する。
- ・ERE 経済学検定試験等の外部評価でマクロ経済学の部分で最高ランクの S 評価を得る。

### ●授業計画

- 第1回 フローとストックの概念
- 第2回 新古典派経済学
- 第3回 ケインズ経済学
- 第4回 GDP と三面等価
- 第5回 物価と経済成長
- 第6回 供給サイドから見た GDP
- 第7回 需要サイドから見た GDP
- 第8回 供給がマクロ経済を決める
- 第9回 需要がマクロ経済を決める
- 第10回 ケインズ型消費関数
- 第11回 限界消費性向と乗数
- 第12回 貨幣とは何か?
- 第13回 金融システムの概観
- 第14回 信用乗数
- 第15回 利子率とは何か?
- 第16回 IS-LM モデルと財政市場均衡
- 第17回 IS-LM モデルと貨幣市場均衡
- 第18回 IS-LM モデルと財政・金融政策
- 第19回 AD-AS モデルと恒常所得仮説
- 第20回 AD-AS モデルとオウケンの法則
- 第21回 AD-AS モデルとサブライザイドの経済政策
- 第22回 購買力平価理論
- 第23回 マンデル・フレミング分析
- 第24回 変動為替相場制下の財政・金融政策
- 第25回 新古典派成長理論 (ソローモデル)
- 第26回 人的資源と労働ストック
- 第27回 異時点間の資源分配
- 第28回 ボーモル・トービンモデル
- 第29回 貧困の罠
- 第30回 経済成長と地球環境問題

### ●事前学習

与えられた内容の課題をしっかりと予習すること。

### ●事後学習

演習問題など、理解を深めるための復習をしっかりとすること。

### ●成績評価

平常点で評価する。ERE 経済学検定試験等の外部評価も考慮する。

### ●テキスト

- 適時、最適と思われるモノに変更することがある。
- \* 伊東元重『マクロ経済学』: 日本評論社, 2010

### ●参考書・参考資料等

- D・ローマ (堀 雅弘他訳)『上級マクロ経済学』: 日本評論社, 2010
- Obstfeld and Rogoff *Foundations of International Macroeconomics* MIT Press 1975

最新のテキストや論文に変更することもある。

### ●備考

特になし。

## 金融論特論

(通年／4単位)

飯田 隆雄

### ●テーマ

現代のトピックを例題に用いながら中級レベルの金融論やファイナンス論を修得する。

### ●授業概要

現在進行中の金融問題を、実例と理論的側面から考察する。

### ●到達目標

金融論・ファイナンス理論の中級レベルの知識を修得する。

### ●授業計画

- 第1回 金融取引と金融市場・利率の決定
- 第2回 金融取引と金融機関
- 第3回 貨幣供給
- 第4回 リスク分担
- 第5回 エージェンシー・コスト
- 第6回 金融市場と裁定取引
- 第7回 国際金融市場
- 第8回 MM理論
- 第9回 市場の実態とMM理論
- 第10回 CAPM理論
- 第11回 市場の実態とCAPM理論
- 第12回 資本市場のリスク分散機能
- 第13回 金融政策と銀行行動（ゼロ金利政策）
- 第14回 金融政策と銀行行動（マイナス金利政策）
- 第15回 信用創造とマネーサプライ
- 第16回 金融市場の一般均衡モデル
- 第17回 金融市場の一般均衡モデルと金融政策
- 第18回 資産選択行動
- 第19回 家計・企業の金融行動と資本市場における価格決定
- 第20回 家計・企業の金融行動と金融政策が資本市場及ぼす影響
- 第21回 家計・企業・資本市場の意思決定
- 第22回 家計の資金運用行動
- 第23回 企業の資金運用行動
- 第24回 危険資産の価格決定
- 第25回 金融規制と制度改革
- 第26回 規制緩和と金融危機
- 第27回 セイフティ・ネットの利益の帰着
- 第28回 モラル・ハザード問題
- 第29回 資産選択モデル
- 第30回 業際問題

### ●事前学習

与えられた内容の課題をしっかりと予習すること。

### ●事後学習

演習問題など、理解を深めるための復習をしっかりとすること。

### ●成績評価

平常点

### ●テキスト

適時指示する。

### ●参考書・参考資料等

適時指示する。

### ●備考

特になし。

## 財政学特論

(通年／4単位)

山田 玲良

### ●テーマ

現代財政学における政府の役割に関する先行研究の概説

### ●授業概要

修士論文において財政研究を志す受講者を想定し、現代の財政学における基本的な論点を概説し、研究テーマの発見を支援する。公共経済学、厚生経済学、公共選択論、社会選択論等、隣接する諸分野の研究成果も紹介する。受講者の必要に応じて、財政学の研究に必要な基本理論（ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論等）の習得を助ける。

### ●到達目標

近年の財政学（関連する公共経済学、公共選択論、社会選択論等も含む。）のトピックスについて理解を深めるとともに、修士論文のテーマ又はテーマを補完する小テーマとなり得る事柄を見出し、修士論文を構想する下地づくりに生かす。

### ●授業計画

受講者には毎回、テキストについて予習した内容の報告、問題提起を求める。授業では提起された問題を検討し、要点を確認する。前期はテキストの第1章から第5章まで、後期は第6章から第10章までをカバーする（下記）。基本理論の習得が必要なときは、並行して教授する。

- 第1回 市場と所有権（導入）
- 第2回 市場と所有権（本論）
- 第3回 市場と所有権（結論）
- 第4回 集団の利益（導入）
- 第5回 集団の利益（本論）
- 第6回 集団の利益（結論）
- 第7回 投票と公共財（導入）
- 第8回 投票と公共財（本論）
- 第9回 投票と公共財（結論）
- 第10回 市場の補正（導入）
- 第11回 市場の補正（本論）
- 第12回 市場の補正（結論）
- 第13回 社会正義（導入）
- 第14回 社会正義（本論）
- 第15回 社会正義（結論）
- 第16回 政治と再配分（導入）
- 第17回 政治と再配分（本論）
- 第18回 政治と再配分（結論）
- 第19回 課税（導入）
- 第20回 課税（本論）
- 第21回 課税（結論）
- 第22回 利用者料金（導入）
- 第23回 利用者料金（本論）
- 第24回 利用者料金（結論）
- 第25回 政府の規模（導入）
- 第26回 政府の規模（本論）
- 第27回 政府の規模（結論）
- 第28回 財政と生活（導入）
- 第29回 財政と生活（本論）
- 第30回 財政と生活（結論）

### ●事前学習

講義における討論議論に備え、テキストを精読・理解しておく。

### ●事後学習

講義の内容・討論の結果を整理・考察し、修士論文の構想に活かせるものを記録しておく。

### ●成績評価

予習、出席、授業参加の状況、事後学修報告にもとづき、総合的に評価する。

### ●テキスト

アリエ・L・ヒルマン『入門財政・公共政策－政府の責任と限界』  
(井堀利宏監訳)：勁草書房、2006

### ●参考書・参考資料等

とくに理解を深めたい事柄について、授業中で指定又は推奨する。

### ●備考

授業の中で、数式による厳密な論証を求めることがあります。

## 経済政策特論

(通年／4単位)

松本 源太郎

### ●テーマ

「経済のサービス化とマクロ経済」をテーマとして考究する。産業構造がサービス化している経緯と事実を、わが国の経済発展のマクロ的視点から考究するものである。

### ●授業概要

わが国経済が成熟化し、低成長機にあつて新たな産業政策が模索されている。かつての高度成長期の産業政策は、「国際競争力強化」という国家的スローガンのもとに各種産業を育成することが課題であった。特定の産業をターゲットとした保護・育成・近代化が図られた。これらの産業政策がマクロ経済政策とどのように整合的に行われたのか、経済全体の厚生最大化にどのように貢献できたかという観点から、わが国の産業政策を批判的に考究する。テキストや論文については、受講生と相談する。

### ●到達目標

「サービス化とマクロ経済」をテーマとして、マクロ経済学の基礎理論の習熟を目標とする。学部段階のマクロ経済学は、基礎概念から始めてマンデル・フレミングモデルで一応完結するが、それらの復習からさらに成長モデルを用いて、経済がサービス化している中での総要素生産性を重視した分析までを習熟の第1の目標とする。

第2の目標には、戦後わが国の産業政策を、しっかり理解することを目標とする。

これらにより、受講生は、マクロ経済学の基礎理論を習熟した上で、経済成長に不可欠とされた産業政策の成果を、適否を含めて、理解し批判的に考えることができるようになる。

### ●授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 マクロ経済学の考え方：導入
- 第3回 マクロ経済学の考え方：基礎と確認
- 第4回 マクロ経済の一般均衡モデル：導入
- 第5回 マクロ経済の一般均衡モデル：基礎
- 第6回 マクロ経済の一般均衡モデル：応用
- 第7回 Hicks モデル：講義
- 第8回 Hicks モデル：演習
- 第9回 Hicks モデル：確認
- 第10回 Patinkin モデル：講義
- 第11回 Patinkin モデル：演習
- 第12回 Patinkin モデル：確認
- 第13回 Patinkin モデルと Keynes モデル：講義
- 第14回 Patinkin モデルと Keynes モデル：演習
- 第15回 経済発展と産業構造：講義
- 第16回 戦後わが国の産業政策：導入
- 第17回 戦後わが国の産業政策：基礎
- 第18回 復興期の産業政策：導入
- 第19回 復興期の産業政策：基礎
- 第20回 復興期の産業政策：応用
- 第21回 高度成長と産業政策：導入
- 第22回 高度成長と産業政策：基礎
- 第23回 高度成長と産業政策：応用
- 第24回 高度成長と産業政策：有効競争論
- 第25回 安定成長と産業政策：導入
- 第26回 安定成長と産業政策：基礎
- 第27回 安定成長と産業政策：応用
- 第28回 産業の高度化：基礎
- 第29回 産業の高度化：応用
- 第30回 産業の高度化と IT 戦略

### ●事前学習

予習すべきテキスト・論文は事前に指示する。一部に英語論文を含むので、休むことなく事前学習することが必要である。

### ●事後学習

復習は、次回講義における疑問・質問の準備を含むものであるから、必ず行わなければならない。

### ●成績評価

普段の発表により評価する。

### ●テキスト

テキスト・論文については受講生と相談する。適時、重要文献を配布する。

### ●参考書・参考資料等

松本源太郎『経済のサービス化と産業政策』：北大図書刊行会、その他。

### ●備考

特になし。

## 世界経済特論

(通年／4単位)

本間 雅美

### ●テーマ

グローバル・インバランスについての国際通貨・金融面での基礎知識を理解する。現代通貨制度であるドル基軸通貨制度が現代の国際取引の支払いシステムと決済メカニズムの中核を担っている点の特徴と問題点を理解し、世界経済の将来を展望する。

### ●授業概要

2008年9月のリーマン・ショック以降、世界のマネーフローは大きく変質しつつある。アジアからの対米投資に陰りがみられ、従来のように新興国が外貨準備を積み上げ、それを積極的に米国債投資に振り向ける環境ではなくなっている。米国へのマネーフローが減少することに伴って、グローバル・インバランスと呼ばれる世界的規模での国際金融面の不均衡とドルという基軸通貨の信認が失われることに改めて注目が集まっています。そこで、世界経済の重心が先進国から新興国へと動いてきている現状を踏まえつつ、世界のマネーフローの変化という観点から、世界経済の現状と課題を考えていきます。

### ●到達目標

グローバル・インバランスのさまざまな現象や出来事を、世界経済学の考え方を道具として用いて分析し、解決への糸口を探ることを目的のひとつとします。分析の対象は、外国貿易の黒字・赤字の正しい見方や為替レートの変動だけでなく、外国為替取引の実際、国際通貨の過去、現在、未来など様々です。グローバル化がもたらした経済社会問題を考える手法を身につけ、さまざまな職業上や生活上の意思決定に役立つ正しい知識と能力を高める努力を行ってください。

### ●授業計画

#### 【第一部】国際金融の基礎概念・理論

- 第1回 国際金融とは何か
- 第2回 外国為替取引とは何か
- 第3回 外国為替相場の仕組み
- 第4回 外国為替取引の実態
- 第5回 外国為替市場
- 第6回 国際収支の見方
- 第7回 国際収支の調整
- 第8回 国際決済システム
- 第9回 外国為替相場の変動
- 第10回 円ドル相場の推移
- 第11回 資産運用の投機の実態
- 第12回 チャレンジ 円高ドル安
- 第13回 ブレトンウッズ体制
- 第14回 基軸通貨と基軸通貨国
- 第15回 負債決済と米国の役割

#### 【第二部】国際通貨制度の歴史と理論

- 第1回 ブレトンウッズ体制の成立
- 第2回 IMFと基軸通貨
- 第3回 基軸通貨の役割
- 第4回 ドル基軸通貨の機能と米国の役割
- 第5回 金・ドル本位制と崩壊
- 第6回 固定相場制
- 第7回 変動相場制とドル本位制
- 第8回 国際通貨危機と IMF の役割
- 第9回 1960年代：ドル危機—ドル不足
- 第10回 1990年代：アジア通貨危機—ドル過剰
- 第11回 21世紀：サブプライム問題とグローバル・インバランス
- 第12回 米国の対外債務累積と負債決済
- 第13回 ドル基軸体制の持続性
- 第14回 多極通貨体制と国際協力
- 第15回 ドル資産の新たな購入者の登場

### ●事前学習

レポートの作成や、シラバスに沿った事前の予習と論点の整理により、理解を高める。

### ●事後学習

事前に配布した資料の理論的背景や論点の整理をすることで、概要のまとめ方を深く学んでほしい。

### ●成績評価

出席、報告の準備の度合い、レポート等で総合的に判断する。

### ●テキスト

受講生と相談のうえ決定します。

### ●参考書・参考資料等

講義時に指示する。

### ●備考

特になし。

## 経済統計学特論

(通年／4単位)

平井 貴幸

### ●テーマ

統計学のうち、経済学で多く利用される理論や分析手法を中心に学ぶ。

### ●授業概要

自然科学・社会科学を問わずに多岐にわたる分野において、データに基づく議論には共通の統計的処理が必要であり、統計学はデータ科学の数理として重要な役割を担っている。本講義では、ミクロ的、あるいはマクロ的な経済現象を実証するうえで必要となる統計データの収集方法や、データ解析のためのさまざまな理論を解説する。また、実際にコンピュータを用いて、さまざまな統計分析手法を実践することで、その理解を深めていく。本講義で議論する分析手法については、受講生の研究テーマに沿ったものを優先的に扱う。

### ●到達目標

本講義では、さまざまな経済現象を捉えるために必要となる統計学の基礎的理論、およびデータ解析の基本的な手法の理解を深めることに主眼を置いており、表計算ソフトや統計解析ソフトを用いて、実践的に分析手法を学んでいく。受講生それぞれが研究目的に沿った統計分析方法を選択し、その手法の長所・短所を理解した上で、具体的に対応することのできる能力の修得を目指す。

### ●授業計画

- 第1回 イントロダクション：本講義の概要
- 第2回 微積分の基礎
- 第3回 線型代数の基礎
- 第4回 確率の基本的性質
- 第5回 確率変数とその分布
- 第6回 大数の法則と中心極限定理
- 第7回 標本と統計モデルについて
- 第8回 統計的推測について
- 第9回 仮説検定について
- 第10回 経済統計データの特性と収集方法
- 第11回 経済統計データ収集の実践
- 第12回 回帰分析の概要
- 第13回 クロスセクション・データを用いた分析とその応用
- 第14回 時系列データを用いた分析とその応用
- 第15回 まとめ①：第1～14回の内容の整理
- 第16回 主成分分析の理論的展開
- 第17回 主成分分析の実践
- 第18回 因子分析の理論的展開
- 第19回 因子分析の実践
- 第20回 判別分析の理論的展開
- 第21回 判別分析の実践
- 第22回 クラスタ分析の理論的展開
- 第23回 クラスタ分析の実践
- 第24回 データ包絡分析の理論的展開
- 第25回 データ包絡分析の実践
- 第26回 時系列分析の理論的展開
- 第27回 時系列分析の実践
- 第28回 パネルデータ分析の理論的展開
- 第29回 パネルデータ分析の実践
- 第30回 まとめ②：第16～29回の内容の整理

### ●事前学習

各回の講義では、前回の内容の理解度を確認しながら、つぎの内容を展開する予定のため、受講生には前回の講義内容をよく復習することを求める。

### ●事後学習

講義において解説した理論や分析手法の理解を深めるために、その都度、課題を与える。

### ●成績評価

授業での報告30%、課題レポート70%として総合的に評価する。

### ●テキスト

基本的にはレジュメを準備し、それを用いた講義を進める予定である。

### ●参考書・参考資料等

- \* Greene, W.H. (2011) *Econometric Analysis* (7th ed.), Prentice Hall.
- \* Wooldridge, J.M. (2010) *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data* (2nd ed.), MIT Press.
- \* Mardia, K.V., J.T. Kent and J.M. Bibby (2003) *Multivariate Analysis*, Academic Press.
- \* World Bank, *World Development Indicators* (<http://www.worldbank.org/>).
- \* Asian Development Bank, *Key Indicators for Asia and the Pacific* (<http://www.adb.org/ja>).
- \* 日本の各省庁・各種統計データなど。

### ●備考

特になし。

## 国際経済学特論 <H27以降入学生>

(通年／4単位)

千葉 隆生

### ●テーマ

ミクロ経済学をベースとした国際経済学の理論を修得することを目的とするとともに、現実の国際経済の問題を正確に理解する力を身に付ける。

### ●授業概要

国際経済のテキストを担当を決めて発表してもらいます。

人数が多い場合は輪読しますが、そうでない場合は、私も入って輪読します。

### ●到達目標

国際経済に関して、現実を的確に分析できる能力を身に付ける。

### ●授業計画

- 第1回 国際法駅の範囲と方法
- 第2回 小国の貿易
- 第3回 二国モデル
- 第4回 可変的生産と貿易モデル
- 第5回 貿易均衡の比較静学モデル
- 第6回 比較優位と貿易
- 第7回 貿易モデルの貨幣的側面
- 第8回 産業構造と国際貿易
- 第9回 ヘクシャーオリーンの貿易モデル
- 第10回 生産構造の双対的分析
- 第11回 ヘクシャーオリーン理論の基本定理
- 第12回 産業調整と国際貿易
- 第13回 マーシャル的外部経済と国際貿易
- 第14回 不完全競争と国際貿易
- 第15回 産業内貿易の理論
- 第16回 資本移動の分析
- 第17回 資本移動と国際分業
- 第18回 企業の国際化
- 第19回 関税政策の効果
- 第20回 国内価格政策の効果
- 第21回 数量政策の効果
- 第22回 政策目的と政策手段
- 第23回 関税と交易条件
- 第24回 関税と経済厚生
- 第25回 関税と国内所得分配
- 第26回 関税と国際資本移動
- 第27回 有効保護の理論
- 第28回 市場の不完全性
- 第29回 収穫逓増産業と保護貿易
- 第30回 幼稚産業保護論

### ●事前学習

今回のテキストの精読。

### ●事後学習

講義の復習と課題の提出。

### ●成績評価

授業内での発表や授業に臨む態度により評価する。

### ●テキスト

未定。

### ●参考書・参考資料等

未定。

### ●備考

特になし。

## 経済学史特論

(通年／4単位)

内山 隆司

### ●テーマ

過去から現在までの経済成長理論の発展の歴史を概観することによって、経済学を持つ多様性と柔軟性を理解する。

### ●授業概要

現代の経済成長理論では、新古典派成長理論と呼ばれるものが主流派を占めているが、歴史的に見ると、これが唯一の成長理論というわけではありません。本講義では、新古典派だけでなく、古典派、マルクス派、ケインズ派の成長理論も取り上げながら、成長理論の発展史を振り返ると共に成長理論を持つ理論的多様性を検証する。なお参加者には、基本レベルのミクロ・マクロ経済学、経済数学の知識が求められます。

### ●到達目標

経済成長理論の基本構造と、その発展の歴史を理解する。

### ●授業計画

- 第1回 経済成長理論の基礎 (導入)
- 第2回 経済成長理論の基礎 (背景)
- 第3回 経済成長理論の基礎 (数学的準備)
- 第4回 経済成長理論の基礎 (理論)
- 第5回 経済成長理論の基礎 (応用)
- 第6回 古典派の経済成長モデル (導入)
- 第7回 古典派の経済成長モデル (背景)
- 第8回 古典派の経済成長モデル (需要面)
- 第9回 古典派の経済成長モデル (供給面)
- 第10回 古典派の経済成長モデル (技術進歩)
- 第11回 古典派の経済成長モデル (動的経路)
- 第12回 古典派の経済成長モデル (発展)
- 第13回 マルクス派の経済成長モデル (導入)
- 第14回 マルクス派の経済成長モデル (背景)
- 第15回 マルクス派の経済成長モデル (需要面)
- 第16回 マルクス派の経済成長モデル (供給面)
- 第17回 マルクス派の経済成長モデル (技術進歩)
- 第18回 マルクス派の経済成長モデル (動的経路)
- 第19回 ケインズ派の経済成長モデル (導入)
- 第20回 ケインズ派の経済成長モデル (背景)
- 第21回 ケインズ派の経済成長モデル (需要面)
- 第22回 ケインズ派の経済成長モデル (供給面)
- 第23回 ケインズ派の経済成長モデル (技術進歩)
- 第24回 ケインズ派の経済成長モデル (動的経路)
- 第25回 新古典派の経済成長モデル (導入)
- 第26回 新古典派の経済成長モデル (背景)
- 第27回 新古典派の経済成長モデル (需要面)
- 第28回 新古典派の経済成長モデル (供給面)
- 第29回 新古典派の経済成長モデル (技術進歩)
- 第30回 新古典派の経済成長モデル (動的経路)

### ●事前学習

授業参加者には、担当箇所を予習した上でレジュメ (要約) を作成してもらう。

### ●事後学習

授業内容を復習し、次回の授業の理解に必要な知識を整理する。

### ●成績評価

レポートと発表内容で評価する。(レポート 50%、発表内容 50%)

### ●テキスト

Duncan K. Foley and Thomas R. Michl, *Growth and Distribution*, Harvard University Press, 1999.  
(佐藤・笠松 [監訳] 『成長と分配』: 日本経済評論社, 2002)

### ●参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

### ●備考

特になし。

## 外国文献研究

(春学期／2単位)

飯田 隆雄

### ●テーマ

Public Economics と Public Sector に関する概念を *Intermediate Public Economics* の解答集を利用して事例を交えながら修得する。

### ●授業概要

*Solutions Manual To Accompany Intermediate Public Economics* を講読することによって、競争の概念が経済学に関わる事柄をより深く理解する。

### ●到達目標

英語の教科書を自由に読むための基礎学習と事例の解答例の修得。

### ●授業計画

- 第1回 Introduction
- 第2回 Competitive Economics
- 第3回 Government
- 第4回 Theories of the Public Sector
- 第5回 Public Goods
- 第6回 Club Goods and Local Public Goods
- 第7回 Externalities
- 第8回 Imperfect Competition
- 第9回 Asymmetric Information
- 第10回 Voting
- 第11回 Rent-Seeking
- 第12回 Optimality and Comparability
- 第13回 Inequality and Poverty
- 第14回 Commodity Taxation
- 第15回 Income Taxation

### ●事前学習

事前に英文を訳し、日本語の参考書などで内容を理解する等の予習をしてこること。

### ●事後学習

理解できなかった事柄を日本語の参考書などで復習すること。

### ●成績評価

平常点

### ●テキスト

Nigar Hashimzade, Jean Hindriks, and Gareth D. Myles *Solutions Manual To Accompany Intermediate Public Economics* MIT Press 2006

### ●参考書・参考資料等

Jean Hindriks, and Gareth D. Myles *Intermediate Public Economics* MIT Press 2006

### ●備考

特になし。

## 金融論特別演習 I

(通年 / 4 単位)

飯田 隆雄

### ●テーマ

修士論文執筆に必要な論文執筆の作法、文献調査、及び理論的基礎概念の修得。

### ●授業概要

今日的金融問題を、Stiglitz & Greenwald "Toward a New Paradigm in Monetary Economics" の課題を中心に最新の論文や基本論文を調査・研究する。また、修士論文のテーマを決める。研究セミナーなどに積極的に参加することを授業出席の前提とする。

### ●到達目標

特別演習 I では、研究テーマの設定とその具体化を進め、先行研究に関する分析および理解を深めることを目標としている。修士論文を作成するための骨子を練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の分析に時間を割くことで、特別演習 II におけるより具体的な論文指導の基盤作りを目指す。

### ●授業計画

#### 研究計画の立案および変更に関する指導

- 第 1 回 問題関心および問題意識の整理
- 第 2 回 問題関心および問題意識の具体化
- 第 3 回 問題関心および問題意識の方向性
- 第 4 回 問題関心および問題意識から具体的テーマの設定
- 第 5 回 研究テーマの妥当性 (オリジナリティの有無)
- 第 6 回 研究目的・研究動機・妥当性 (学祭性の有無)
- 第 7 回 研究方法の確認 研究テーマを分析するための方法を確認する (例: 文献研究か実証研究か)
- 第 8 回 研究基礎力の確認 研究テーマを分析するための基礎的能力を確認する
- 第 9 回 研究計画書の骨子作成
- 第 10 回 先行研究の渉猟方法
- 第 11 回 先行研究の整理・取捨選択
- 第 12 回 先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究の進め方
- 第 13 回 先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究の進め方
- 第 14 回 先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究の進め方
- 第 15 回 その他の先行研究に関する留意および確認
- 第 16 回 研究計画書の詳細化、具体化および変更
- 第 17 回 第一次目次の作成
- 第 18 回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究への批判的分析
- 第 19 回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究への批判的分析
- 第 20 回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究への批判的分析
- 第 21 回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論④ 先行研究への批判的分析
- 第 22 回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論⑤ 先行研究への批判的分析
- 第 23 回 その他の目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論 先行研究への批判的分析
- 第 24 回 第一次目次の修正 (第二次目次の作成)

#### 修士論文のパーツ作成に関する指導

- 第 25 回 先行研究のとりまとめ 研究テーマのキーとなる先行研究を確認する
- 第 26 回 キーとなる先行研究のより詳細な分析① 脚注などを含めた完全な理解
- 第 27 回 キーとなる先行研究のより詳細な分析② 脚注などを含めた完全な理解
- 第 28 回 キーとなる先行研究のより詳細な分析③ 脚注などを含めた完全な理解
- 第 29 回 中間報告会へ向けた準備 予行練習指導
- 第 30 回 中間報告会

### ●事前学習

担当箇所への報告準備をする。

### ●事後学習

疑問箇所や未解決部分の調査。

### ●成績評価

平常点

### ●テキスト

Stiglitz & Greenwald "Toward a New Paradigm in Monetary Economics" 内藤純一、家森信善訳『新しい金融論』東京大学出版会 2003 年

### ●参考書・参考資料等

適時指示する。

### ●備考

特になし。

## 金融論特別演習 II

(通年 / 4 単位)

飯田 隆雄

### ●テーマ

修士論文執筆に必要な論文執筆の作法、文献調査、及び理論的基礎概念を実際に執筆しながら内容を高めてゆく。

### ●授業概要

修士論文のテーマに即してさらなる調査・研究をする。具体的には、関連文献や実地調査を実施し、修士論文を完成させる。研究セミナーなどに積極的に参加することを授業出席の前提とする。

### ●到達目標

特別演習 II では、研究テーマの設定とその具体化をさらに進め、最終稿の完成を目指す。修士論文を作成するための骨子をさらに練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の完全理解と精査に時間を割き、修士論文として水準を担保できるような草稿の練り直しを複数にわたっておこない、最終稿の完成へ向けた論文指導をおこなう。

### ●授業計画

#### 完全目次完成への指導 (さらなる先行研究の理解と精査)

- 第 1 回 ガイダンス (特別演習 I までの確認作業と今後の方針について)
  - 第 2 回 全体構想と草稿の執筆および小見出し付き目次の作成
  - 第 3 回 小見出しの確認による先行研究の取捨選択と再考
  - 第 4 回 先行研究一覧の作成
  - 第 5 回 小見出しの再考と論点整理および絞り込み
- #### 修士論文骨子作成への指導
- 第 6 回 小見出し付き研究ノートの作成
  - 第 7 回 研究ノートから章、節のタイトル付け
  - 第 8 回 「序論」「結論」の整理。主題に関する再考と確認
- #### 修士論文第一次、第二次、第三次草稿の完成へ向けた指導
- 第 9 回 第一次草稿の完成① 第一次草稿執筆のポイント
  - 第 10 回 第一次草稿の完成② 第一次草稿と研究ノート (小見出し) の整合性
  - 第 11 回 第一次草稿の完成③ 第一次草稿と研究ノート (章、節) の整合性
  - 第 12 回 第一次草稿の完成④ 第一次草稿の再考
  - 第 13 回 第一次草稿の論理一貫性のチェック
  - 第 14 回 第二次草稿の完成① 第二次草稿執筆のポイント
  - 第 15 回 第二次草稿の完成② 第二次草稿と第一次草稿との比較検討 (どこをどのように手直したか)
  - 第 16 回 第二次草稿の完成③ 第二次草稿の論理一貫性のチェック (「序論」「結論」との整合性再考)
  - 第 17 回 第二次草稿の完成④ 第二次草稿全体の確認と演習 (ゼミ) 内報告の実施 (修士論文指導者からの意見聴取)
  - 第 18 回 第二次草稿の文章の言い回し、誤字脱字修正 (研究論文らしい体裁の確認)
  - 第 19 回 第三次草稿の完成① 第二次草稿の手直し
  - 第 20 回 第三次草稿の完成② 第三次草稿と第二次草稿との比較検討 (どこをどのように手直したか)
  - 第 21 回 第三次草稿の完成③ 第三次草稿の論理一貫性のチェック (加筆修正部分と論旨の一貫性が保たれているか)
  - 第 22 回 第三次草稿の完成④ 第三次草稿全体の確認と演習 (ゼミ) 内報告の実施 (修士論文としての水準にあるか)

#### 最終稿の完成へ向けた指導

- 第 23 回 図表の整理、貼り付け 図表の元となった一次資料の確認
- 第 24 回 本論挿入注の精査① 先行研究における孫引き文献などの確認
- 第 25 回 本論挿入注の精査② 過失による剽窃の回避
- 第 26 回 引用にかかる出所、出典の確認 適当な場所に適当な挿入注がおこなわれているか。
- 第 27 回 参考文献一覧の作成
- 第 28 回 論文タイトルの最終決定
- 第 29 回 論文要旨の作成
- 第 30 回 最終稿の完成および審査会準備

### ●事前学習

発表部分の準備。

### ●事後学習

未調査部分の調査。

### ●成績評価

平常点

### ●テキスト

適時指示する。

### ●参考書・参考資料等

適時指示する。

### ●備考

特になし。

## 財政学特別演習Ⅰ

(通年／4単位)

山田 玲良

### ●テーマ

現代財政学における政府の役割に関する研究調査の指導。

### ●授業概要

近年の財政学（関連する公共経済学、公共選択論、社会選択論等も含む。）のトピックスをとりあげる。履修者には、関心のあるトピックスに関わる先行研究について報告を求め、討論およびさらなる先行研究の調査により、修士論文における考察の下地を整える。

### ●到達目標

特別演習Ⅰでは、研究テーマの設定とその具体化を進め、先行研究に関する分析および理解を深めることを目標としている。修士論文を作成するための骨子を練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の分析に時間を割くことで、特別演習Ⅱにおけるより具体的な論文指導の基盤作りを目指す。

### ●授業計画

#### 研究計画の立案および変更に関する指導

- 第1回 問題関心および問題意識の整理
- 第2回 問題関心および問題意識の具体化
- 第3回 問題関心および問題意識の方向性
- 第4回 問題関心および問題意識から具体的テーマの設定
- 第5回 研究テーマの妥当性（オリジナリティの有無）
- 第6回 研究目的・研究動機（学祭性）の妥当性（学祭性）の有無
- 第7回 研究方法の確認 研究テーマを分析するための方法を確認する（例：文献研究か実証研究か）
- 第8回 研究基礎力の確認 研究テーマを分析するための基礎的能力を確認する
- 第9回 研究計画書の骨子作成
- 第10回 先行研究の渉猟方法
- 第11回 先行研究の整理・取捨選択
- 第12回 先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究の進め方
- 第13回 先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究の進め方
- 第14回 先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究の進め方
- 第15回 その他の先行研究に関する留意および確認
- 第16回 研究計画書の詳細化、具体化および変更
- 第17回 第一次目次の作成
- 第18回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究への批判的分析
- 第19回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究への批判的分析
- 第20回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究への批判的分析
- 第21回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論④ 先行研究への批判的分析
- 第22回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論⑤ 先行研究への批判的分析
- 第23回 その他の目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論 先行研究への批判的分析
- 第24回 第一次目次の修正（第二次目次の作成）

#### 修士論文のパーツ作成に関する指導

- 第25回 先行研究のとりまとめ 研究テーマのキーとなる先行研究を確認する
- 第26回 キーとなる先行研究のより詳細な分析① 脚注などを含めた完全な理解
- 第27回 キーとなる先行研究のより詳細な分析② 脚注などを含めた完全な理解
- 第28回 キーとなる先行研究のより詳細な分析③ 脚注などを含めた完全な理解
- 第29回 中間報告会へ向けた準備 予行練習指導
- 第30回 中間報告会

### ●事前学習

レポートの作成や、シラバスに沿った事前の予習と論点の整理により、理解を高める。

### ●事後学習

事前に配布した資料の理論的背景や論点の整理をすることで、概要のまとめ方を深く学んでほしい。

### ●成績評価

出席、報告の準備の度合い、レポート等で総合的に判断する。

### ●テキスト

受講生と相談のうえ決定します。

### ●参考書・参考資料等

講義時に指示する。

### ●備考

特になし。

## 財政学特別演習Ⅱ

(通年／4単位)

山田 玲良

### ●テーマ

現代財政学における政府の役割に関する修士論文の指導。

### ●授業概要

近年の財政学（関連する公共経済学、公共選択論、社会選択論等も含む。）のトピックスをテーマに修士論文を執筆する履修者に対して、この分野の修士論文に求められる研究内容・水準、記述の作法等を概説し、履修者の研究がそれらの要件を満足できるように、個別具体的に指導していく。

### ●到達目標

特別演習Ⅱでは、研究テーマの設定とその具体化をさらに進め、最終稿の完成を目指す。修士論文を作成するための骨子をさらに練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の完全理解と精査に時間を割き、修士論文として水準を担保できるような草稿の練り直しを複数にわたっておこない、最終稿の完成へ向けた論文指導をおこなう。

### ●授業計画

#### 完全目次完成への指導（さらなる先行研究の理解と精査）

- 第1回 ガイダンス（特別演習Ⅰまでの確認作業と今後の方針につて）
  - 第2回 全体構想と草稿の執筆および小見出し付き目次の作成
  - 第3回 小見出しの確認による先行研究の取捨選択と再考
  - 第4回 先行研究一覧の作成
  - 第5回 小見出しの再考と論点整理および絞り込み
- #### 修士論文骨子作成への指導
- 第6回 小見出し付き研究ノートの作成
  - 第7回 研究ノートから章、節のタイトル付け
  - 第8回 「序論」「結論」の整理。主題に関する再考と確認
- #### 修士論文第一次、第二次、第三次草稿の完成へ向けた指導
- 第9回 第一次草稿の完成① 第一次草稿執筆のポイント
  - 第10回 第一次草稿の完成② 第一次草稿と研究ノート（小見出し）の整合性
  - 第11回 第一次草稿の完成③ 第一次草稿と研究ノート（章、節）の整合性
  - 第12回 第一次草稿の完成④ 第一次草稿の再考
  - 第13回 第一次草稿の論理一貫性のチェック
  - 第14回 第二次草稿の完成① 第二次草稿執筆のポイント
  - 第15回 第二次草稿の完成② 第二次草稿と第一次草稿との比較検討（どこをどのように手直したか）
  - 第16回 第二次草稿の完成③ 第二次草稿の論理一貫性のチェック（「序論」「結論」との整合性再考）
  - 第17回 第二次草稿の完成④ 第二次草稿全体の確認と演習（ゼミ）内報告の実施（修士論文指導者からの意見聴取）
  - 第18回 第二次草稿の文章の言い回し、誤字脱字修正（研究論文らしい体裁の確認）
  - 第19回 第三次草稿の完成① 第二次草稿の手直し
  - 第20回 第三次草稿の完成② 第三次草稿と第二次草稿との比較検討（どこをどのように手直したか）
  - 第21回 第三次草稿の完成③ 第三次草稿の論理一貫性のチェック（加筆修正部分と論旨の一貫性が保たれているか）
  - 第22回 第三次草稿の完成④ 第三次草稿全体の確認と演習（ゼミ）内報告の実施（修士論文としての水準にあるか）

#### 最終稿の完成へ向けた指導

- 第23回 図表の整理、貼り付け 図表の元となった一次資料の確認
- 第24回 本論挿入注の精査① 先行研究における孫引き文献などの確認
- 第25回 本論挿入注の精査② 過失による剽窃の回避
- 第26回 引用にかかる出所、出典の確認 適当な場所に適当な挿入注がおこなわれているか。
- 第27回 参考文献一覧の作成
- 第28回 論文タイトルの最終決定
- 第29回 論文要旨の作成
- 第30回 最終稿の完成および審査会準備

### ●事前学習

演習における報告に備え、研究における考察の整理、プレゼンテーション資料の作成などが求められる。

### ●事後学習

修士論文の完成に向けて、演習における報告及び討論の結果を整理・考察していくことが求められる。

### ●成績評価

予習、出席、授業参加の状況、研究報告、修士論文の完成にもとづき、総合的に評価する。

### ●テキスト

各自取り組むトピックスにより、履修者毎に指定する。

●参考書・参考資料等

アリエ・L・ヒルマン（井堀利宏監訳）『入門財政・公共政策』  
：勁草書房，2006年

●備考

特になし。

## 世界経済特別演習Ⅰ

（通年／4単位）

本間 雅美

●テーマ

●授業概要

構造調整の理論と実践の現状と問題点を考察する。

●到達目標

特別演習Ⅰでは、研究テーマの設定とその具体化を進め、先行研究に関する分析および理解を深めることを目標としている。修士論文を作成するための骨子を練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の分析に時間を割くことで、特別演習Ⅱにおけるより具体的な論文指導の基盤作りを目指す。

●授業計画

### 研究計画の立案および変更に関する指導

1. 問題関心および問題意識の整理
2. 問題関心および問題意識の具体化
3. 問題関心および問題意識の方向性
4. 問題関心および問題意識から具体的テーマの設定
5. 研究テーマの妥当性（オリジナリティの有無）
6. 研究目的・研究動機の妥当性（学祭性の有無）
7. 研究方法の確認 研究テーマを分析するための方法を確認する（例：文献研究か実証研究か）
8. 研究基礎力の確認 研究テーマを分析するための基礎的能力を確認する
9. 研究計画書の骨子作成
10. 先行研究の渉猟方法
11. 先行研究の整理・取捨選択
12. 先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究の進め方
13. 先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究の進め方
14. 先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究の進め方
15. その他の先行研究に関する留意および確認
16. 研究計画書の詳細化，具体化および変更
17. 第一次目次の作成
18. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究への批判的分析
19. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究への批判的分析
20. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究への批判的分析
21. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論④ 先行研究への批判的分析
22. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論⑤ 先行研究への批判的分析
23. その他の目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論 先行研究への批判的分析
24. 第一次目次の修正（第二次目次の作成）

### 修士論文のパーツ作成に関する指導

25. 先行研究のとりまとめ 研究テーマのキーとなる先行研究を確認する
26. キーとなる先行研究のより詳細な分析① 脚注などを含めた完全な理解
27. キーとなる先行研究のより詳細な分析② 脚注などを含めた完全な理解
28. キーとなる先行研究のより詳細な分析③ 脚注などを含めた完全な理解
29. 中間報告会へ向けた準備 予行練習指導
30. 中間報告会

●事前学習

レポートの作成や、シラバスに沿った事前の予習と論点の整理により、理解を高める。

●事後学習

事前に配布した資料の理論的背景や論点の整理をすることで、概要のまとめ方を深く学んでほしい。

●成績評価

出席、報告の準備の度合い、レポート等で総合的に判断する。

●テキスト

受講生と相談のうえ決定します。

●参考書・参考資料等

講義時に指示する。

●備考

特になし。

## 世界経済特別演習Ⅱ

(通年/4単位)

本間 雅美

### ●テーマ

#### ●授業概要

開発政策の理論と実践の現状と問題点を考察する。

#### ●到達目標

特別演習Ⅱでは、研究テーマの設定とその具体化をさらに進め、最終稿の完成を目指す。修士論文を作成するための骨子をさらに練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の完全理解と精査に時間を割き、修士論文として水準を担保できるような草稿の練り直しを複数にわたっておこない、最終稿の完成へ向けた論文指導をおこなう。

#### ●授業計画

##### 完全目次完成への指導（さらなる先行研究の理解と精査）

1. ガイダンス（特別演習Ⅰまでの確認作業と今後の方針について）
2. 全体構想と草稿の執筆および小見出し付き目次の作成
3. 小見出しの確認による先行研究の取捨選択と再考
4. 先行研究一覧の作成
5. 小見出しの再考と論点整理および絞り込み

##### 修士論文骨子作成への指導

6. 小見出し付き研究ノートへの作成
7. 研究ノートから章、節のタイトル付け
8. 「序論」「結論」の整理。主題に関する再考と確認

##### 修士論文第一次、第二次、第三次草稿の完成へ向けた指導

9. 第一次草稿の完成① 第一次草稿執筆のポイント
10. 第一次草稿の完成② 第一次草稿と研究ノート（小見出し）の整合性
11. 第一次草稿の完成③ 第一次草稿と研究ノート（章、節）の整合性
12. 第一次草稿の完成④ 第一次草稿の再考
13. 第一次草稿の論理一貫性のチェック
14. 第二次草稿の完成① 第二次草稿執筆のポイント
15. 第二次草稿の完成② 第二次草稿と第一次草稿との比較検討（どこをどのように手直したか）
16. 第二次草稿の完成③ 第二次草稿の論理一貫性のチェック（「序論」「結論」との整合性再考）
17. 第二次草稿の完成④ 第二次草稿全体の確認と演習（ゼミ）内報告の実施（修士論文指導者からの意見聴取）
18. 第二次草稿の文章の言い回し、誤字脱字修正（研究論文らしい体裁の確認）
19. 第三次草稿の完成① 第二次草稿の手直し
20. 第三次草稿の完成② 第三次草稿と第二次草稿との比較検討（どこをどのように手直したか）
21. 第三次草稿の完成③ 第三次草稿の論理一貫性のチェック（加筆修正部分と論旨の一貫性が保たれているか）
22. 第三次草稿の完成④ 第三次草稿全体の確認と演習（ゼミ）内報告の実施（修士論文としての水準にあるか）

##### 最終稿の完成へ向けた指導

23. 図表の整理、貼り付け 図表の元となった一次資料の確認
24. 本論挿入注の精査① 先行研究における孫引き文献などの確認
25. 本論挿入注の精査② 過失による剽窃の回避
26. 引用にかかる出所、出典の確認 適当な場所に適当な挿入注がおこなわれているか。
27. 参考文献一覧の作成
28. 論文タイトルの最終決定
29. 論文要旨の作成
30. 最終稿の完成および審査会準備

#### ●事前学習

レポートの作成や、シラバスに沿った事前の予習と論点の整理により、理解を高める。

#### ●事後学習

事前に配布した資料の理論的背景や論点の整理をすることで、概要のまとめ方を深く学んでほしい。

#### ●成績評価

出席、報告の準備の度合い、レポート等で総合的に判断する。

#### ●テキスト

受講生と相談のうえ決定します。

#### ●参考書・参考資料等

講義時に指示する。

#### ●備考

特になし。

## 国際経済学特別演習Ⅰ <H27以降入学生>

(通年/4単位)

千葉 隆生

### ●テーマ

修士論文作成に必要なミクロ経済学をベースとした国際経済学の理論を修得することを目的とするとともに、現実の国際経済の問題を正確に理解する力を身に付ける。

#### ●授業概要

各人の研究テーマに沿って、修士論文のテーマを決め、その研究をするために必要な論文のサーベイとそれを行うために必要な知識の修得をする予定である。

#### ●到達目標

特別演習Ⅰでは、研究テーマの設定とその具体化を進め、先行研究に関する分析および理解を深めることを目標としている。修士論文を作成するための骨子を練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の分析に時間を割くことで、特別演習Ⅱにおけるより具体的な論文指導の基盤作りを目指す。

#### ●授業計画

##### 研究計画の立案および変更に関する指導

1. 問題関心および問題意識の整理
2. 問題関心および問題意識の具体化
3. 問題関心および問題意識の方向性
4. 問題関心および問題意識から具体的テーマの設定
5. 研究テーマの妥当性（オリジナリティの有無）
6. 研究目的・研究動機（学祭性）の妥当性（学祭性）の有無
7. 研究方法の確認 研究テーマを分析するための方法を確認する（例：文献研究か実証研究か）
8. 研究基礎力の確認 研究テーマを分析するための基礎的能力を確認する
9. 研究計画書の骨子作成
10. 先行研究の渉猟方法
11. 先行研究の整理・取捨選択
12. 先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究の進め方
13. 先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究の進め方
14. 先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究の進め方
15. その他の先行研究に関する留意および確認
16. 研究計画書の詳細化、具体化および変更
17. 第一次目次の作成
18. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究への批判的分析
19. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究への批判的分析
20. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究への批判的分析
21. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論④ 先行研究への批判的分析
22. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論⑤ 先行研究への批判的分析
23. その他の目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論 先行研究への批判的分析
24. 第一次目次の修正（第二次目次の作成）

##### 修士論文のパーツ作成に関する指導

25. 先行研究のとりまとめ 研究テーマのキーとなる先行研究を確認する
26. キーとなる先行研究のより詳細な分析① 脚注などを含めた完全な理解
27. キーとなる先行研究のより詳細な分析② 脚注などを含めた完全な理解
28. キーとなる先行研究のより詳細な分析③ 脚注などを含めた完全な理解
29. 中間報告会へ向けた準備 予行練習指導
30. 中間報告会

#### ●事前学習

研究成果の発表の準備。

#### ●事後学習

課題の提出。

#### ●成績評価

平常点と発表の出来で評価する。

#### ●テキスト

未定。

#### ●参考書・参考資料等

未定。

#### ●備考

特になし。

## 国際経済学特別演習Ⅱ <H27以降入学生> (通年/4単位) 千葉 隆生

### ●テーマ

ミクロ経済学をベースとした国際経済学の理論を修得することを目的とするとともに、現実の国際経済の問題を正確に理解する力を身に付け、修士論文を完成させる。

### ●授業概要

各人の研究テーマに沿って、修士論文のテーマを決め、その研究をするために必要な論文のサーベイとそれを行うために必要な知識の修得をする予定である。

### ●到達目標

特別演習Ⅱでは、研究テーマの設定とその具体化をさらに進め、最終稿の完成を目指す。修士論文を作成するための骨子をさらに練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の完全理解と精査に時間を割き、修士論文として水準を担保できるような草稿の練り直しを複数にわたっておこない、最終稿の完成へ向けた論文指導をおこなう。

### ●授業計画

#### 完全目次完成への指導 (さらなる先行研究の理解と精査)

1. ガイダンス (特別演習Ⅰまでの確認作業と今後の方針について)
2. 全体構想と草稿の執筆および小見出し付き目次の作成
3. 小見出しの確認による先行研究の取捨選択と再考
4. 先行研究一覧の作成
5. 小見出しの再考と論点整理および絞り込み

#### 修士論文骨子作成への指導

6. 小見出し付き研究ノートへの作成
7. 研究ノートから章、節のタイトル付け
8. 「序論」「結論」の整理。主題に関する再考と確認

#### 修士論文第一次、第二次、第三次草稿の完成へ向けた指導

9. 第一次草稿の完成① 第一次草稿執筆のポイント
10. 第一次草稿の完成② 第一次草稿と研究ノート (小見出し) の整合性
11. 第一次草稿の完成③ 第一次草稿と研究ノート (章、節) の整合性
12. 第一次草稿の完成④ 第一次草稿の再考
13. 第一次草稿の論理一貫性のチェック
14. 第二次草稿の完成① 第二次草稿執筆のポイント
15. 第二次草稿の完成② 第二次草稿と第一次草稿との比較検討 (どこをどのように手直したか)
16. 第二次草稿の完成③ 第二次草稿の論理一貫性のチェック (「序論」「結論」との整合性再考)
17. 第二次草稿の完成④ 第二次草稿全体の確認と演習 (ゼミ) 内報告の実施 (修士論文指導者からの意見聴取)
18. 第二次草稿の文章の言い回し、誤字脱字修正 (研究論文らしい体裁の確認)
19. 第三次草稿の完成① 第二次草稿の手直し
20. 第三次草稿の完成② 第三次草稿と第二次草稿との比較検討 (どこをどのように手直したか)
21. 第三次草稿の完成③ 第三次草稿の論理一貫性のチェック (加筆修正部分と論旨の一貫性が保たれているか)
22. 第三次草稿の完成④ 第三次草稿全体の確認と演習 (ゼミ) 内報告の実施 (修士論文としての水準にあるか)

#### 最終稿の完成へ向けた指導

23. 図表の整理、貼り付け 図表の元となった一次資料の確認
24. 本論挿入注の精査① 先行研究における孫引き文献などの確認
25. 本論挿入注の精査② 過失による剽窃の回避
26. 引用にかかる出所、出典の確認 適当な場所に適当な挿入注がおこなわれているか。
27. 参考文献一覧の作成
28. 論文タイトルの最終決定
29. 論文要旨の作成
30. 最終稿の完成および審査会準備

### ●事前学習

研究成果の発表の準備。

### ●事後学習

課題の提出。

### ●成績評価

平常点と発表の出来で評価する。

### ●テキスト

未定。

### ●参考書・参考資料等

未定。

### ●備考

特になし。

## 経済学史特別演習Ⅰ (通年/4単位) 内山 隆司

### ●テーマ

経済学説史に関する修士論文を作成するのに必要な経済学的知識、資料収集法、数理的手法等を修得する。

### ●授業概要

この演習では、過去の経済学説に関する修士論文を完成させるために必要と思われる基礎力を習得することを目標とする。演習参加者には、古典を読むだけではなく、現代のミクロ経済学やマクロ経済学、およびそれらにおいて必要となる数理的手法の理解と習得も求める。経済学史が経済学の一分野である以上、現代経済学との関連性も忘れるべきではないと考えるからである。

### ●到達目標

特別演習Ⅰでは、研究テーマの設定とその具体化を進め、先行研究に関する分析および理解を深めることを目標としている。修士論文を作成するための骨子を練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の分析に時間を割くことで、特別演習Ⅱにおけるより具体的な論文指導の基盤作りを目指す。

### ●授業計画

#### 研究計画の立案および変更に関する指導

- 第1回 問題関心および問題意識の整理
- 第2回 問題関心および問題意識の具体化
- 第3回 問題関心および問題意識の方向性
- 第4回 問題関心および問題意識から具体的なテーマの設定
- 第5回 研究テーマの妥当性 (オリジナリティの有無)
- 第6回 研究目的・研究動機の妥当性 (学祭性の有無)
- 第7回 研究方法の確認 研究テーマを分析するための方法を確認する (例: 文献研究か実証研究か)
- 第8回 研究基礎力の確認 研究テーマを分析するための基礎的能力を確認する
- 第9回 研究計画書の骨子作成
- 第10回 先行研究の渉猟方法
- 第11回 先行研究の整理・取捨選択
- 第12回 先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究の進め方
- 第13回 先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究の進め方
- 第14回 先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究の進め方
- 第15回 その他の先行研究に関する留意および確認
- 第16回 研究計画書の詳細化、具体化および変更
- 第17回 第一次目次の作成
- 第18回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究への批判的分析
- 第19回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究への批判的分析
- 第20回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究への批判的分析
- 第21回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論④ 先行研究への批判的分析
- 第22回 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論⑤ 先行研究への批判的分析
- 第23回 その他の目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論 先行研究への批判的分析
- 第24回 第一次目次の修正 (第二次目次の作成)

#### 修士論文のパーツ作成に関する指導

- 第25回 先行研究のとりまとめ 研究テーマのキーとなる先行研究を確認する
  - 第26回 キーとなる先行研究のより詳細な分析① 脚注などを含めた完全な理解
  - 第27回 キーとなる先行研究のより詳細な分析② 脚注などを含めた完全な理解
  - 第28回 キーとなる先行研究のより詳細な分析③ 脚注などを含めた完全な理解
  - 第29回 中間報告会へ向けた準備 予行練習指導
  - 第30回 中間報告会
- ### ●事前学習
- 演習参加者には、担当箇所を予習した上でレジュメ (要約) を作成してもらう。
- ### ●事後学習
- 演習内容を復習し、次回の演習の理解に必要な知識を整理する。
- ### ●成績評価
- 平常点による。
- ### ●テキスト
- 受講者と相談の上決定する。
- ### ●参考書・参考資料等
- 必要に応じて指示する。
- ### ●備考
- 特になし。

## 経済学史特別演習Ⅱ

(通年／4単位)

内山 隆司

### ●テーマ

先行研究を精査・完全理解し、自らの研究の意義を明確に示せる、経済学説史に関する修士論文を完成させる。

### ●授業概要

この演習では、特別演習Ⅰにおいて習得した基礎力をもとに、過去の経済学説に関する修士論文を完成させることを目標とする。演習参加者の選択したテーマに沿って、修士論文の作成を指導する。

### ●到達目標

特別演習Ⅱでは、研究テーマの設定とその具体化をさらに進め、最終稿の完成を目指す。修士論文を作成するための骨子をさらに練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の完全理解と精査に時間を割き、修士論文として水準を担保できるような草稿の練り直しを複数にわたっておこない、最終稿の完成へ向けた論文指導をおこなう。

### ●授業計画

#### 完全目次完成への指導（さらなる先行研究の理解と精査）

- 第1回 ガイダンス（特別演習Ⅰまでの確認作業と今後の方針について）
- 第2回 全体構想と草稿の執筆および小見出し付き目次の作成
- 第3回 小見出しの確認による先行研究の取捨選択と再考
- 第4回 先行研究一覧の作成
- 第5回 小見出しの再考と論点整理および絞り込み

#### 修士論文骨子作成への指導

- 第6回 小見出し付き研究ノートの作成
- 第7回 研究ノートから章、節のタイトル付け
- 第8回 「序論」「結論」の整理。主題に関する再考と確認

#### 修士論文第一次、第二次、第三次草稿の完成へ向けた指導

- 第9回 第一次草稿の完成① 第一次草稿執筆のポイント
- 第10回 第一次草稿の完成② 第一次草稿と研究ノート（小見出し）の整合性
- 第11回 第一次草稿の完成③ 第一次草稿と研究ノート（章、節）の整合性
- 第12回 第一次草稿の完成④ 第一次草稿の再考
- 第13回 第一次草稿の論理一貫性のチェック
- 第14回 第二次草稿の完成① 第二次草稿執筆のポイント
- 第15回 第二次草稿の完成② 第二次草稿と第一次草稿との比較検討（どこをどのように手直したか）
- 第16回 第二次草稿の完成③ 第二次草稿の論理一貫性のチェック（「序論」「結論」との整合性再考）
- 第17回 第二次草稿の完成④ 第二次草稿全体の確認と演習（ゼミ）内報告の実施（修士論文指導者からの意見聴取）
- 第18回 第二次草稿の文章の言い回し、誤字脱字修正（研究論文らしい体裁の確認）
- 第19回 第三次草稿の完成① 第二次草稿の手直し
- 第20回 第三次草稿の完成② 第三次草稿と第二次草稿との比較検討（どこをどのように手直したか）
- 第21回 第三次草稿の完成③ 第三次草稿の論理一貫性のチェック（加筆修正部分と論旨の一貫性が保たれているか）
- 第22回 第三次草稿の完成④ 第三次草稿全体の確認と演習（ゼミ）内報告の実施（修士論文としての水準にあるか）

#### 最終稿の完成へ向けた指導

- 第23回 図表の整理、貼り付け 図表の元となった一次資料の確認
- 第24回 本論挿入注の精査① 先行研究における孫引き文献などの確認
- 第25回 本論挿入注の精査② 過失による剽窃の回避
- 第26回 引用にかかる出所、出典の確認 適当な場所に適当な挿入注がおこなわれているか。
- 第27回 参考文献一覧の作成
- 第28回 論文タイトルの最終決定
- 第29回 論文要旨の作成
- 第30回 最終稿の完成および審査会準備

### ●事前学習

演習参加者には、担当箇所を予習した上でレジュメ（要約）を作成してもらう。

### ●事後学習

演習内容を復習し、次回の演習の理解に必要な知識を整理する。

### ●成績評価

平常点による。

### ●テキスト

受講者と相談の上決定する。

### ●参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

### ●備考

特になし。

## 地域経済学特論

(通年／4単位)

武者 加苗

### ●テーマ

地域経済学、都市経済学、財政学、農業経済学とその関連・発展分野を、近代経済学の立場から学ぶ。

### ●授業概要

同じ通貨・法制度を持つ一国内であっても、行政区域や輸送コストの存在を考慮すると、その経済状況は様々ではない。一般に、地域間の経済はヒト・モノの移動が容易であり開放的であることから、国際間の経済状況とは異なる事象が発生する。講義では、「地域」という概念を軸に、社会で起こった経済的事象の背景や、その経済事象が抱える問題点について学ぶ。

### ●到達目標

修士論文の作成に必要な基礎的な地域経済・都市経済のモデル及びその考え方を修得する。

### ●授業計画

- 第1回 世界の地域経済の基本構造
- 第2回 日本の地域経済の基本構造
- 第3回 北海道の地域経済の基本構造
- 第4回 地域経済の成長の概念
- 第5回 地域経済の成長理論
- 第6回 需要モデルと供給モデル
- 第7回 地域間格差と人口移動
- 第8回 米国の地域間格差と人口移動
- 第9回 日本の地域間格差と人口移動
- 第10回 地域間交易と空間経済学
- 第11回 欧州の地域間交易と空間経済学
- 第12回 日本の地域間交易と空間経済学
- 第13回 産業の立地
- 第14回 工業の立地
- 第15回 商業施設の立地
- 第16回 産業連関表とは
- 第17回 産業連関分析とは
- 第18回 産業連関分析による経済波及効果
- 第19回 都市と地域の交通
- 第20回 都市部の交通と混雑
- 第21回 地方部の交通と持続可能性
- 第22回 都市の環境問題～外部性
- 第23回 都市の環境問題～郊外
- 第24回 都市の環境政策
- 第25回 地価と土地問題
- 第26回 土地税制の効果
- 第27回 住宅市場の理論
- 第28回 ヘドニック・アプローチ
- 第29回 住宅政策の分析
- 第30回 公共部門と地方公共財

### ●事前学習

テキストの該当部分を読んでおくこと。

### ●事後学習

理論と実体経済の違いについて考察し、次回の授業で報告できるようにすること。

### ●成績評価

レポート提出を春学期、秋学期に各1回ずつ課し、出席回数と参加態度を加味して評価する。

レポートのテーマは参加者の関心によって選択できる。

### ●テキスト

H.Armstrong, J.Taylor “Regional Economics and Policy” 2002,  
邦訳：佐々木公明 訳（2005）「[改訂版]地域経済学と地域政策」流通経済大学出版社

### ●参考書・参考資料等

\* 黒田達朗・中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学 新版』  
：有斐閣,2008

\* 山田浩之(著,編集)・徳岡一幸(編集)『地域経済学入門 新版』  
：有斐閣コンパクト,2007

\* E・グレイザー、山形浩生(訳)「都市は人類最高の発明である」  
：NTT出版,2012

### ●備考

特になし。

## 地域金融論特論

(通年／4単位)

岩堀 洋士

### ●テーマ

金融・地域金融の基礎・基本を探り、実態分析への展望を図る。  
「基本に忠実、なおかつ柔軟な応用」に意を注ぐ。

### ●授業概要

「地域金融」を対象に理論、歴史、現状について学んでいく。金融論では従来、企業（資本）の側からのアプローチが主流を占めてきたが、「地域金融」を考える場合はむしろ「地域経済・地域住民」の側からのアプローチが求められる。従来の金融理論を検討した上で、視点の転換の必要性を認識し、地域金融の現状について検討していく。

履修者の問題関心に応じた講義内容にも配慮する。

### ●到達目標

「誰の、何のための金融か」の修得を目指す。時代、環境の変化に対応しうる将来の金融のあり方を身につける。

### ●授業計画

- 第1回 「金融を学ぶ」ことの意味について
- 第2回 「企業（資本）」の循環
- 第3回 「短期」循環と「長期」循環
- 第4回 金融の基本形態（企業間信用）
- 第5回 金融の基本形態（銀行信用）
- 第6回 金融の基本形態（金融制度・信用制度の形成）
- 第7回 金融制度の形成（まとめ）
- 第8回 戦前日本の金融制度
- 第9回 戦前日本の金融制度（まとめ）
- 第10回 戦後日本の金融制度
- 第11回 戦後日本の金融制度（まとめ）
- 第12回 株式会社と証券金融（長期金融形成史）
- 第13回 証券金融と証券市場
- 第14回 公金融と消費者金融
- 第15回 金融資産の累積
- 第16回 金融制度の展開
- 第17回 第4回～第17回のまとめ
- 第18回 「誰の、何のための金融か」
- 第19回 金融環境・金融実態の変化
- 第20回 金融の担い手と機能
- 第21回 「地域経済」の課題
- 第22回 「地域金融」の課題とあり方
- 第23回 「地域金融」の実態～日本の「地域金融」
- 第24回 「地域金融」の実態～北海道の銀行
- 第25回 「地域金融」の実態～北海道の信用金庫
- 第26回 企業金融と個人金融
- 第27回 第17回～第18回に関するレポート報告・検討
- 第28回 第21回～第22回に関するレポート報告・検討
- 第29回 第23回～第25回に関するレポート報告・検討
- 第30回 1年間のまとめ

### ●事前学習

テーマ・内容の把握と予習

### ●事後学習

テーマ・内容の把握と文献整理

### ●成績評価

平常点

### ●テキスト

履修者と相談の上、決定。

### ●参考書・参考資料等

川並洋一・上川孝夫編『現代金融論』有斐閣、2004年刊。

### ●備考

特になし。

## 地域計量分析特論

(通年／4単位)

駒木 泰

### ●テーマ

地域経済をモデル化するための計量経済学の基本概念の習得と各種応用モデルの理解。

### ●授業概要

地域経済を計量経済学で分析するための手法を講義する。経済理論で構築された変数間の関係は、いろいろなモデルによって定式化できる。計量経済学は、もっとも良いモデルを見つける判断材料を与える。本講義では、そのための理論的根拠、実際のデータの分析例を講義する。

### ●到達目標

計量経済学の基礎概念が理解できる。コンピュータを用いてデータ分析が行える。

### ●授業計画

- 第1回 ガイダンス、テキスト選考
- 第2回 分布特性を示す統計量：分布の中心位置
- 第3回 分布特性を示す統計量：分布の拡がり
- 第4回 分布特性を示す統計量：分布の歪みを示す統計量
- 第5回 確率：確率変数と確率分布
- 第6回 確率：期待値
- 第7回 統計的推測：母集団と標本
- 第8回 統計的推測：仮説検定
- 第9回 二変数データの分析：散布図と相関係数
- 第10回 二変数データの分析：相関係数の適用
- 第11回 回帰分析の基礎：最小二乗法
- 第12回 回帰分析の基礎：決定係数
- 第13回 回帰分析の基礎：回帰係数の仮説検定
- 第14回 回帰分析の基礎：回帰分析の手順
- 第15回 回帰診断：自己相関
- 第16回 回帰診断：分散不均一
- 第17回 回帰診断：正規性の検定
- 第18回 回帰診断：他の回帰診断の紹介
- 第19回 回帰診断：回帰診断の適用
- 第20回 回帰モデル：経済理論との関連
- 第21回 回帰モデル：消費関数の紹介
- 第22回 回帰モデル：投資関数の紹介
- 第23回 回帰モデル：生産関数の紹介
- 第24回 回帰モデル：労働供給関数の紹介
- 第25回 回帰モデル：輸出・輸入関数の紹介
- 第26回 回帰モデル：マクロモデルの紹介
- 第27回 回帰モデル：トレンドモデルの紹介
- 第28回 回帰モデル：ARモデルの紹介
- 第29回 回帰モデル：回帰モデルの選択
- 第30回 講義のまとめ

### ●事前学習

各自の研究テーマと関連したデータの所在を調べておくこと。

### ●事後学習

使用している文献・資料を理解しておくこと。

### ●成績評価

出席、授業での発言内容、作成レジュメの内容等で総合的に評価する。

### ●テキスト

複数の候補を提示した上で、受講者と相談の上、決定する。

### ●参考書・参考資料等

使用しているテキストに関連したものを講義時に指示する。

### ●備考

特になし。

## 現代社会事情特論<H27以降入学生>

(春学期/2単位)

岩堀・飯田

### ●テーマ

中央官庁やサービス業・製造業の実務担当者からのオムニバス講義を通じて、企業倫理の重要性を学ぶ。

### ●授業概要

中央官庁の実務担当者や企業トップの経営者から、経済の見方や企業戦略を聴講する。オムニバス授業であるが担当教員が毎回出席するので、講師・担当教員・履修者の中で積極的な議論を期待する。これらの議論を通じて、幅広い思慮や知識とより深いテーマについての分析を期待する授業である。

### ●到達目標

ビジネス最前線の問題と課題を明示化し、解決策の基本的考え方を習得する。

### ●授業計画

経団 CSR 部門の推進母体である(社)経営倫理実践研究センターの協力ののもとに、製造業やサービス業を中心に、実務家による経営環境や企業戦略についての講義である。現在、日程などを調整中であるが、講義内容の予定を記載する。

第1回 春学期オリエンテーション

第2回 「メガバンクの業務の展開について」

MTUFJ 銀行 CSR 推進部次長 五味俊哉 氏

第3回 「モノづくりとトヨタ生産方式 (TPS)」

トヨタ自動車北海道(株) 取締役社長 田中義克 氏

第4回 「町役場の仕事事情—平取町のケース—」

平取町役場 まちづくり課 課長 遠藤桂一 氏

第5回 「大塚グループの社会活動から見えてくる製品への思い」

(株)大塚製薬工業 総務部業務渉外担当 北村和敏 氏

第6回 「企業の社会的責任と消費者教育～イオンの挑戦 2つの

シンカ (進化と深化)～」

イオン株式会社 企業倫理チーム 服部春樹 氏

第7回 「事業と一体化した戦略的CSR」

株式会社アデランス CSR 推進室 部長 箕輪睦夫 氏

第8回 「コンビニチェーンの物流が支える地域経済」

(株) セイコーマート マーケティング企画部

部長 佐々木威知 氏

第9回 「上手に使うって豊かな生活を演出する注意点 (借入注意点)」

アコム(株) CSR 推進部 佐伯隆博 氏

第10回 「楽しい旅ビジネスに求められる文系学生の資質」

エイチ・アイ・エス 取締役相談役 行方一正 氏

第11回 「不得意をゼロにして自分の夢を確実に描ける方法とは？」

ベネッセホールディングス 渉外部CSR推進課

課長 高梨 徹 氏

第12回 「放送局の危機管理 ～福島原発事故の教訓～」

株式会社東京放送ホールディングス (TBS HD)

コンプライアンス室長 神田和則 氏

第13回: 「海上保安庁の任務とは?—日本の海を取り巻く諸問題—」

第一管区海上保安本部交通部 安全課長 蓮見由絵 氏

第14回: 「ブリヂストンのCSR活動」

(株)ブリヂストン CSR推進部

CSRユニットリーダー 河野 洋一 氏

第15回: 「ホテル事業・マンション販売・委託事業から見えてくる、

求められる学生資質」

(株) アンビックス 経営企画室長 吉田雅典 氏

### ●事前学習

外部講師の所属する企業について調べて、議論できるように準備しておく。

### ●事後学習

講義内容や議論のレポートを完成させ提出する。

### ●成績評価

予習、出席、授業参加の状況、研究レポート等にもとづき、総合的に評価する。

### ●テキスト

適時指示する。

### ●参考書・参考資料等

適時指示する。

### ●備考

学外研究やセミナーがありますので、それらの参加も成績評価の対象とします。

## 環境科学論特論

(通年/4単位)

稲垣 陽介

### ●テーマ

地球環境に関連する天然資源の経済学をはじめ経済学・金融工学において用いられる数値的・解析的手法の習得。

### ●授業概要

地球環境問題に関連する天然資源の経済学をはじめ経済学・金融工学において用いられる数値的・解析的手法を学ぶ。GNU Octave/MATLAB および C/C++言語による計算機演習をつうじ、線形方程式、反復法、最適化、非線形方程式、近似法、数値積分・微分、モンテカルロ・シミュレーション法、擬モンテカルロ法、有限差分法、関数方程式の射影法、数値動的計画法、正則摂動法、漸近法などの手法を習得する。

### ●到達目標

UNIX 互換オペレーティングシステムにおいて、経済学・金融工学で用いられる数値的・解析的手法を C/C++言語をもちいて記述する能力を習得する。

### ●授業計画

第1回 Introducing C

第2回 C Fundamentals

第3回 Formatted Input/Output

第4回 Expressions

第5回 Selection Statements

第6回 Loops

第7回 Basic Types

第8回 Arrays

第9回 Functions

第10回 Program Organization

第11回 Pointers

第12回 Pointers and Arrays

第13回 Strings

第14回 The Preprocessor

第15回 Writing Large Programs

第16回 Structures, Unions, and Enumerations

第17回 Advanced Uses of Pointers

第18回 Declarations

第19回 Program Design

第20回 Low-Level Programming

第21回 The Standard Library

第22回 Input/Output

第23回 Library Support for Numbers and Character Data

第24回 Error Handling

第25回 International Features

第26回 Miscellaneous Library Functions

第27回 GNU Scientific Libraries (Eigensystems)

第28回 GNU Scientific Libraries (Fast Fourier Transforms)

第29回 GNU Scientific Libraries (Numerical Integration)

第30回 GNU Scientific Libraries (Simulated Annealing)

### ●事前学習

テキストにおける課題をプログラミングし、プログラムのソースコードおよび実行結果を教員まで提出する。

### ●事後学習

演習時に示された課題をプログラミングし、プログラムのソースコードおよび実行結果を教員まで提出する。

### ●成績評価

毎回課されるプログラミング課題 100%

### ●テキスト

K. N. King, "C Programming: A Modern Approach", W. W. Norton (2008)

### ●参考書・参考資料等

\* F. S. Acton, "Numerical Methods that Work",

The Mathematical Association of America (1999)

\* K. L. Judd, "Numerical Methods in Economics", The MIT Press (1998)

\* R. N. Mantegna and H. E. Stanley, "Introduction to Econophysics", Cambridge University Press (2007)

\* J. Voit, "The Statistical Mechanics of Financial Markets", Springer (2010)

\* M. J. Miranda and P. L. Fackler, "Applied Computational Economics and Finance", The MIT Press (2002)

\* P. Brandimarte, "Numerical Methods in Finance and Economics", Wiley-Interscience (2006)

### ●備考

UNIX 互換の計算機プログラミング環境を日常的に使用できることが求められる。

## 環境社会論特論

(通年/4単位)  
北構 太郎

### ●テーマ

環境社会に関する研究を遂行するために不可欠の複数領域にまたがる古典的諸研究を、最新のデータや文献等により補足しつつ、身につける。

### ●授業概要

環境に関する多様な認識とアプローチ、具体的な諸問題と取り組みの事例等に関する文献を講読する。最初に各受講生の修士論文のテーマを確認したうえで、受講生の研究に関連をもつ文献を数点選び、輪読形式で講読する(以下の授業計画には、過去の講読例をあげてある)。

### ●到達目標

文献の講読によって、受講生各自の研究に関して理解を深めること。

### ●授業計画

第1回 オリエンテーション：受講生の研究テーマの確認と文献の選択  
第2回 ドブソン編『環境思想入門』(ミネルヴァ書房)の概説、および分担を決める。

第3回 講読 (1) グリーンの批評

第4回 講読 (2) グリーンの社会

第5回 講読 (3) グリーンの社会

第6回 講読 (4) グリーンの経済

第7回 講読 (5) グリーンの政治

第8回 講読 (6) グリーンの哲学

第9回 まとめのディスカッション、次回からの分担を決める。

第10回 講読 (1) 日本環境会議(編)  
『アジア環境白書』(東洋経済新報社)第I部1・2章

第11回 講読 (2) 3・4章

第12回 講読 (3) 第II部日本・韓国

第13回 講読 (4) 中国・台湾

第14回 講読 (5) インドネシア・インド

第15回 まとめのディスカッション、秋学期からの分担を決める。

第16回 講読 (1) イェニック&ヴァイトナー(編)

『成功した環境政策』(有斐閣)1章

第17回 講読 (2) 2章

第18回 講読 (3) 3章(オランダの排水対策)

第19回 講読 (4) 5章(日本の煤煙排出対策)

第20回 講読 (5) 6章(ドイツの大規模燃焼施設の排ガス対策)

第21回 講読 (6) 10章(オゾン層保護のための国際的取組)

第22回 まとめのディスカッション、次回の分担を決める。

第23回 講読 (1) 安藤 眞(編)『環境の仕事大研究』(産学社)序章

第24回 講読 (2) 1章(エコ関連ビジネスの種類)

第25回 講読 (3) 2章(成長が期待される分野)

第26回 講読 (4) 3章(仕事の実際)

第27回 講読 (5) 4章(関連する資格など)

第28回 講読 (6) 5章(就職とキャリア)

第29回 まとめのディスカッション

第30回 全体に関する整理と討論

### ●事前学習

各自が研究テーマとの関連で、講読を希望する文献について考えておくこと。

### ●事後学習

次回の講読部分をよく読んでおくこと。

### ●成績評価

出席、授業での発言等で総合的に評価する。

### ●テキスト

受講生の希望を聞いたうえで決める。

### ●参考書・参考資料等

演習時に提示する。

### ●備考

特になし。

## フランス思想論特論

(通年/4単位)  
工藤 孝史

### ●テーマ

「言語」と「理性」をキーワードに据え、フランス思想の特徴をデカルト的理性主義の継承/発展史として検証する。

### ●授業概要

ルネ・デカルト(1596-1650)をはじめとする Rationalisme(合理主義)の伝統は、時代を経てさまざまな批判・検討に晒されてきたものの、プラトン以来の Idealisme(観念論/理想主義)の伝統とともに、哲学的議論を形成する際の重要な要素となってきました。本講義では、デカルトが良識: bon sens と言語: langage との関係について述べている部分に着目しながら、フェルディナンド・ソシュール、およびモーリス・メルロー＝ポンティといった思想家が、デカルト以来の哲学的伝統をどう発展させていったかを考えます。

### ●到達目標

哲学者・思想家のオリジナル・テキスト(翻訳も含む)を哲学・思想史の流れの中で解釈する手法を習得すること。

### ●授業計画

第1回 イントロダクション「合理主義とは何か」

第2回 デカルトの思想(1) 身体について

第3回 デカルトの思想(2) 知覚について

第4回 デカルトの思想(3) 思惟について

第5回 デカルトは「言語」をどうとらえていたのか?(1) 機械の言語

第6回 デカルトは「言語」をどうとらえていたのか?(2) 人間の言語

第7回 言語と概念について(1) 一般概念の成立根拠について

第8回 言語と概念について(2) 自然言語について

第9回 言語と概念について(3) 普遍言語について

第10回 まとめ: 人間にとって言語とは何か?

第11回 F.ソシュールの思想(1) 記号とは何か

第12回 F.ソシュールの思想(2) 恣意性とは何か

第13回 F.ソシュールの思想(3) 通時的方法について

第14回 F.ソシュールの思想(4) 共時的方法について

第15回 中間総括と討論

第16回 言語と記号について(1) 音声について

第17回 言語と記号について(2) 意味について

第18回 言語と記号について(3) 論理について

第19回 M.メルロー＝ポンティの思想(1) 現象学について

第20回 M.メルロー＝ポンティの思想(2) 体験と思考について

第21回 M.メルロー＝ポンティの思想(3) 世界の現実性について

第22回 言語と身体について(1) 日常的経験とは何か

第23回 言語と身体について(2) 科学的経験とは何か

第24回 言語と身体について(3) 生とは何か

第25回 フランスにおける合理主義の伝統(1) 演繹的方法について

第26回 フランスにおける合理主義の伝統(2) 神について

第27回 フランスにおける合理主義の伝統(3) 経験の普遍性について

第28回 フランスにおける「反合理主義」の潮流

第29回 合理主義の未来について

第30回 総括と討論

### ●事前学習

あらかじめ配られたテキストおよび資料には前もって必ず目を通しておくこと。また、疑問点を整理しておくこと。

### ●事後学習

テーマごとの疑問点を質問・整理したうえで「まとめ」をレポートして提出すること。

### ●成績評価

講義への意欲、レポート、討論における発言内容などを総合して評価する(平常点100%)

### ●テキスト

講義に必要なテキストはこちらで用意の上、プリントまたはWEBサイトを通じて配布する。

### ●参考書・参考資料等

必要な場合に講義内で、または質問受付時に適宜指示する。

### ●備考

特になし。

# アメリカ経済論特論

(通年／4単位)

小島 基男

## ●テーマ

アメリカ経済研究の基礎として、独占成立期以後のアメリカ経済の歴史と現状を理解する。

## ●授業概要

アメリカ経済は、近年その地位が低下したとはいえ、世界経済全体の約1/5を占め、2007年の「サブプライム問題」に端を発する2008年秋のアメリカ金融危機が世界同時不況をもたらしたように、その動向は、日本経済、および、世界経済全体の動きに大きな影響を与えている。

この講義では、19世紀後半の独占形成期以降、現在に至るまでのアメリカ経済の動きを、産業や労働運動の動きなどを含めて、みていくことにより、アメリカ経済がどのようにして現在のよう状況に至っているのかを明らかにしていきたい。

## ●到達目標

独占形成期以降、現在に至るまでのアメリカ経済の動きを、産業や、労働運動の動きなどを含めて、様々な視点から学ぶことにより、アメリカ経済への理解を深める。

## ●授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 独占形成期のアメリカ経済—アメリカ金融資本の確立
- 第3回 独占形成期のアメリカ産業（1）鉄道業・鉄鋼業
- 第4回 独占形成期のアメリカ産業（2）石油産業他
- 第5回 第一次大戦とアメリカ経済
- 第6回 1920年代のアメリカ経済
- 第7回 1920年代における自動車産業の発展
- 第8回 1929年恐慌とアメリカ経済
- 第9回 ニューディール期のアメリカ経済
- 第10回 大恐慌・ニューディール期のアメリカ産業
- 第11回 ニューディール期までのアメリカ労働運動
- 第12回 第二次大戦とアメリカ経済
- 第13回 第二次大戦後アメリカ経済の繁栄（1950年代）
- 第14回 第二次大戦後アメリカ経済の繁栄（1960年代）
- 第15回 ベトナム戦争とアメリカ経済
- 第16回 ニクソンショックとアメリカ経済
- 第17回 オイルショックとアメリカ経済
- 第18回 1970年代以降のアメリカ産業の競争力低下
- 第19回 アメリカ自動車産業の発展と1970年代末の苦境
- 第20回 レーガノミクスの展開とアメリカ経済(基礎)
- 第21回 レーガノミクスの展開とアメリカ経済(発展)
- 第22回 ニューディール期以後1980年代までのアメリカ労働運動
- 第23回 1990年代、クリントン政権下アメリカ経済の「繁栄」と産業の「再生」
- 第24回 ブッシュ政権とアメリカ経済
- 第25回 サブプライム問題とリーマン・ショック(基礎)
- 第26回 サブプライム問題とリーマン・ショック(発展)
- 第27回 GM、クライスラーの破綻とアメリカ自動車産業
- 第28回 オバマ政権とアメリカ経済
- 第29回 トランプ政権とアメリカ経済の現状
- 第30回 まとめ

## ●事前学習

各回のテーマについて、事前に示した参考文献・資料等をあらかじめ読んでおくこと。

## ●事後学習

講義内容をまとめるとともに、事前に学習した文献・資料等も参考に、ノートを整理しておくこと。

## ●成績評価

平常点、レポート等で総合的に評価する。

## ●テキスト

授業中に指示する。

## ●参考書・参考資料等

授業中に指示する。

## ●備考

プリント、資料を配付する。

# 北海道経済特別講義

(夏期集中／2単位)

伊藤 昭男・田原 太志

## ≪伊藤昭男(第1～8回)≫

### ●テーマ

北海道の事例を中心に、地域経済の発展・衰退のダイナミクスの理論と実態を学ぶ。

### ●授業概要

地域経済の発展を考えるためにはその発展と衰退のダイナミクスを都市レベルで考えてみることに有用である。本講義ではかつてジェイン・ジェイコブズが洞察した地域が自立するための経済学を再考し、それと北海道経済のダイナミクス(明治期～現在)との関係を考察する。またそれとあわせて今後の北海道経済の自立に向けての示唆を検討する。

### ●到達目標

- ・地域経済の発展と衰退のメカニズムを理解する
- ・地域経済における都市の重要性を理解する

### ●授業計画

第1回 講義の方針、テキストの全体的理解

第2回 現実にたちもどって、都市地域、供給地域と北海道経済との関係

第3回 労働者に見捨てられる地域、技術と住民排除、移植工場の地域と北海道経済との関係

第4回 都市のない地域に向けられた資本、取り残された地域と北海道経済との関係

第5回 なぜ後進地域は互いを必要とし合うのか、都市への誤ったフィードバックと北海道経済との関係

第6回 衰退の取引、苦境と北海道経済との関係

第7回 漂流と北海道経済との関係、小論文

第8回 補足的考察、まとめ

### ●事前学習

講義に際して指示するテキストの該当範囲を事前に通読しておくこと。

### ●事後学習

- ・事前通読において理解が不十分であった点について理解を深めること。
- ・北海道経済の課題について再考すること。

### ●成績評価

出席とディスカッションを重視する。それらと小論文とをあわせて総合的に評価する。

### ●テキスト

ジェイン・ジェイコブズ『発展する地域 衰退する地域』  
：ちくま学芸文庫,2012

### ●参考書・参考資料等

関 秀志『北海道の歴史(下・近代現代編)』：北海道新聞社,2006

### ●備考

必要に応じてプリントを配布。

## ≪田原 太志(第9～15回)≫

### ●テーマ

消費者側の視点を中心に、多岐にわたる近年の消費者問題の実態とその対策について学ぶ。

### ●授業概要

近年、消費者を取り巻く経済社会環境は複雑多様化している。事業者と消費者の間に存在する情報の質や量、交渉力等の格差により消費者問題は構造的に発生し、その内容は特殊詐欺や悪質商法等の経済的被害から製品事故や食の安全等多岐に渡る。

本講義では、年間被害額が6.7兆円とも推計される消費者問題を通じて、経済についてより理解を深めるため、消費者問題の現状や被害の救済策・防止策、また、行政の果たす役割、消費者関連法規について講義を実施する。

### ●到達目標

多岐に渡る消費者問題に関心を持ち、考察することにより社会における自己の役割を明確化する。

### ●授業計画

第9回 講義の方針(講義の趣旨、流れ、テキストの説明)

第10回 消費者問題の現状①(消費者問題の歴史と近年における傾向及び経済に及ぼす影響)

第11回 消費者問題の現状②(特殊詐欺、悪質商法、契約トラブル等具体的事案の考察)

第12回 消費者行政の果たす役割(国及び地方公共団体)

第13回 消費者被害の救済策と未然防止策(消費生活相談と消費者教育)

第14回 消費者関連法規(特定商取引法、消費者契約法等)

第15回 消費者市民社会の構築(これからの消費者及び社会のあり方)

### ●事前学習

指定した内容のレポートを提出し、授業実施前と実施後の関心度、理解度を明確化する。

### ●事後学習

配布した資料を理解しておくこと。

### ●成績評価

出席、授業における発言内容、レポート等で総合的に評価する。

### ●テキスト

講義時に配布する。

### ●参考書・参考資料等

講義時に指示する。

### ●備考

必要に応じて資料を配布する。

## 地域経済学特別演習Ⅰ

(通年/4単位)

武者 加苗

### ●テーマ

修士論文作成に必要な地域経済学、都市経済学、財政学、農業経済学とその関連・発展分野を、近代経済学の立場から学ぶ。

### ●授業概要

同じ通貨・法制度を持つ一国内であっても、行政区域や輸送コストの存在を考慮すると、その経済状況は様ではない。授業では地域経済・都市経済に関する文献・資料等を取り上げ、毎回受講者のいずれかによる報告を行う。学外へ出たインタビュー等を行うこともある。最終的には2年次の修士論文の提出に向けて、研究計画書を作成・提出することを目標とする。

取り扱うテーマは受講希望者の修士論文テーマを考慮し、相談した上で決定する。特に春学期においては、複数のテーマを並行して進めることも可能である。

### ●到達目標

特別演習Ⅰでは、研究テーマの設定とその具体化を進め、先行研究に関する分析および理解を深めることを目標としている。修士論文を作成するための骨子を練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の分析に時間を割くことで、特別演習Ⅱにおけるより具体的な論文指導の基盤作りを目指す。

### ●授業計画

#### 研究計画の立案および変更に関する指導

1. 問題関心および問題意識の整理
2. 問題関心および問題意識の具体化
3. 問題関心および問題意識の方向性
4. 問題関心および問題意識から具体的なテーマの設定
5. 研究テーマの妥当性（オリジナリティの有無）
6. 研究目的・研究動機（学祭性）の有無
7. 研究方法の確認 研究テーマを分析するための方法を確認する（例：文献研究か実証研究か）
8. 研究基礎力の確認 研究テーマを分析するための基礎的能力を確認する
9. 研究計画書の骨子作成
10. 先行研究の渉猟方法
11. 先行研究の整理・取捨選択
12. 先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究の進め方
13. 先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究の進め方
14. 先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究の進め方
15. その他の先行研究に関する留意および確認
16. 研究計画書の詳細化、具体化および変更
17. 第一次目次の作成
18. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究への批判的分析
19. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究への批判的分析
20. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究への批判的分析
21. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論④ 先行研究への批判的分析
22. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論⑤ 先行研究への批判的分析
23. その他の目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論 先行研究への批判的分析
24. 第一次目次の修正（第二次目次の作成）

#### 修士論文のパーツ作成に関する指導

25. 先行研究のとりまとめ 研究テーマのキーとなる先行研究を確認する
26. キーとなる先行研究のより詳細な分析① 脚注などを含めた完全な理解
27. キーとなる先行研究のより詳細な分析② 脚注などを含めた完全な理解
28. キーとなる先行研究のより詳細な分析③ 脚注などを含めた完全な理解
29. 中間報告会に向けた準備 予行練習指導
30. 中間報告会

### ●事前学習

報告レジュメを作成すること。

### ●事後学習

報告レジュメの内容で指摘されたことを修正すること。

### ●成績評価

春学期は関心あるテーマについてのサーベイ、秋学期は修士論文研究計画書をレポートの代替とし、毎回の授業での報告内容を加味して評価する。

### ●テキスト

受講者の関心・選択テーマに応じたものを利用する。

### ●参考書・参考資料等

受講者の関心・選択テーマに応じたものを紹介する。

### ●備考

特になし。

## 地域経済学特別演習Ⅱ

(通年/4単位)

武者 加苗

### ●テーマ

地域経済学、都市経済学、財政学、農業経済学とその関連・発展分野を、近代経済学の立場から分析し、それに関連する修士論文を完成させる。

### ●授業概要

同じ通貨・法制度を持つ一国内であっても、行政区域や輸送コストの存在を考慮すると、その経済状況は様ではない。授業では地域経済に関する文献・資料等を取り上げ、毎回受講者のいずれかによる報告を行う。最終的には修士論文を作成・提出することを目標とする。

取り扱うテーマは受講希望者の修士論文テーマを考慮し、相談した上で決定する。論文の内容には、特定の地域についてのケーススタディを含めることを原則とする。途中、学外でのワークショップ等での報告を行うことが望ましい。

### ●到達目標

特別演習Ⅱでは、研究テーマの設定とその具体化をさらに進め、最終稿の完成を目指す。修士論文を作成するための骨子をさらに練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の完全理解と精査に時間を割き、修士論文として水準を担保できるような草稿の練り直しを複数にわたっておこない、最終稿の完成へ向けた論文指導をおこなう。

### ●授業計画

#### 完全目次完成への指導（さらなる先行研究の理解と精査）

1. ガイダンス（特別演習Ⅰまでの確認作業と今後の方針について）
2. 全体構想と草稿の執筆および小見出し付き目次の作成
3. 小見出しの確認による先行研究の取捨選択と再考
4. 先行研究一覧の作成
5. 小見出しの再考と論点整理および絞り込み

#### 修士論文骨子作成への指導

6. 小見出し付き研究ノートの作成
7. 研究ノートから章、節のタイトル付け
8. 「序論」「結論」の整理。主題に関する再考と確認

#### 修士論文第一次、第二次、第三次草稿の完成へ向けた指導

9. 第一次草稿の完成① 第一次草稿執筆のポイント
10. 第一次草稿の完成② 第一次草稿と研究ノート（小見出し）の整合性
11. 第一次草稿の完成③ 第一次草稿と研究ノート（章、節）の整合性
12. 第一次草稿の完成④ 第一次草稿の再考
13. 第一次草稿の論理一貫性のチェック
14. 第二次草稿の完成① 第二次草稿執筆のポイント
15. 第二次草稿の完成② 第二次草稿と第一次草稿との比較検討（どこをどのように手直したか）
16. 第二次草稿の完成③ 第二次草稿の論理一貫性のチェック（「序論」「結論」との整合性再考）
17. 第二次草稿の完成④ 第二次草稿全体の確認と演習（ゼミ）内報告の実施（修士論文指導者からの意見聴取）
18. 第二次草稿の文章の言い直し、誤字脱字修正（研究論文らしい体裁の確認）
19. 第三次草稿の完成① 第二次草稿の手直し
20. 第三次草稿の完成② 第三次草稿と第二次草稿との比較検討（どこをどのように手直したか）
21. 第三次草稿の完成③ 第三次草稿の論理一貫性のチェック（加筆修正部分と論旨の一貫性が保たれているか）
22. 第三次草稿の完成④ 第三次草稿全体の確認と演習（ゼミ）内報告の実施（修士論文としての水準にあるか）

#### 最終稿の完成へ向けた指導

23. 図表の整理、貼り付け 図表の元となった一次資料の確認
24. 本論挿入注の精査① 先行研究における孫引き文献などの確認
25. 本論挿入注の精査② 過失による剽窃の回避
26. 引用にかかる出所、出典の確認 適当な場所に適当な挿入注がおこなわれているか。
27. 参考文献一覧の作成
28. 論文タイトルの最終決定
29. 論文要旨の作成
30. 最終稿の完成および審査会準備

### ●事前学習

報告レジュメを準備・作成すること。

### ●事後学習

報告レジュメの内容について指摘されたことを修正し、次回の授業で報告すること。

### ●成績評価

春学期は修士論文経過報告書、秋学期は修士論文をレポートの代替とし、毎回の授業での報告内容を加味して評価する。

### ●テキスト

受講者の関心・選択テーマに応じたものを利用する。

### ●参考書・参考資料等

受講者の関心・選択テーマに応じたものを紹介する。

### ●備考

特になし。

## 地域金融論特別演習Ⅰ

(通年/4単位)

岩堀 洋士

### ●テーマ

修士論文作成に必要な金融・地域金融の基礎・基本を探り、実態分析への展望を図る。「基本に忠実、なおかつ柔軟な応用」に意を注ぐ。

### ●授業概要

地域金融研究者による日本の金融ビジネスモデルの変遷を辿った書物を読破することで、地域金融機関の課題、あり方を探っていく。そのなかで、修士論文のテーマを決めていく(修士論文作成の準備)

### ●到達目標

特別演習Ⅰでは、研究テーマの設定とその具体化を進め、先行研究に関する分析および理解を深めることを目標としている。修士論文を作成するための骨子を練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の分析に時間を割くことで、特別演習Ⅱにおけるより具体的な論文指導の基盤作りを目指す。

### ●授業計画

#### 研究計画の立案および変更に関する指導

1. 問題関心および問題意識の整理
2. 問題関心および問題意識の具体化
3. 問題関心および問題意識の方向性
4. 問題関心および問題意識から具体的テーマの設定
5. 研究テーマの妥当性(オリジナリティの有無)
6. 研究目的・研究動機の妥当性(学祭性の有無)
7. 研究方法の確認 研究テーマを分析するための方法を確認する(例:文献研究か実証研究か)
8. 研究基礎力の確認 研究テーマを分析するための基礎的能力を確認する
9. 研究計画書の骨子作成
10. 先行研究の渉猟方法
11. 先行研究の整理・取捨選択
12. 先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究の進め方
13. 先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究の進め方
14. 先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究の進め方
15. その他の先行研究に関する留意および確認
16. 研究計画書の詳細化、具体化および変更
17. 第一次目次の作成
18. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究への批判的分析
19. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究への批判的分析
20. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究への批判的分析
21. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論④ 先行研究への批判的分析
22. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論⑤ 先行研究への批判的分析
23. その他の目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論 先行研究への批判的分析
24. 第一次目次の修正(第二次目次の作成)

#### 修士論文のパーツ作成に関する指導

25. 先行研究のとりまとめ 研究テーマのキーとなる先行研究を確認する
26. キーとなる先行研究のより詳細な分析① 脚注などを含めた完全な理解
27. キーとなる先行研究のより詳細な分析② 脚注などを含めた完全な理解
28. キーとなる先行研究のより詳細な分析③ 脚注などを含めた完全な理解
29. 中間報告会へ向けた準備 予行練習指導
30. 中間報告会

### ●事前学習

テキスト読破に向けて十分な読み込みとレジュメ作成

### ●事後学習

疑問点の整理と関心の発掘

### ●成績評価

平常点

### ●テキスト

粕谷 誠・伊藤正直・齋藤 憲編『金融ビジネスモデルの変遷』日本経済評論社、2010年刊。

### ●参考書・参考資料等

適宜指示。

### ●備考

特になし。

## 地域計量分析特別演習Ⅰ

(通年/4単位)

駒木 泰

### ●テーマ

計量経済学による地域経済のモデル化と経済分析(修士論文作成のための準備)

### ●授業概要

修士論文の作成のための問題意識の明確化、関連文献の収集、データの検索と収集を行う。関連文献は、問題意識とそれに対応する経済理論、および計量経済学についてのものを収集する。データは、グラフ作成や記述統計量の算出により、分布状況を把握しておく。問題意識、データ、経済理論の一貫した連結を試みる。

### ●到達目標

特別演習Ⅰでは、研究テーマの設定とその具体化を進め、先行研究に関する分析および理解を深めることを目標としている。修士論文を作成するための骨子を練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の分析に時間を割くことで、特別演習Ⅱにおけるより具体的な論文指導の基盤作りを目指す。

### ●授業計画

#### 研究計画の立案および変更に関する指導

1. 問題関心および問題意識の整理
2. 問題関心および問題意識の具体化
3. 問題関心および問題意識の方向性
4. 問題関心および問題意識から具体的テーマの設定
5. 研究テーマの妥当性(オリジナリティの有無)
6. 研究目的・研究動機の妥当性(学祭性の有無)
7. 研究方法の確認 研究テーマを分析するための方法を確認する(例:文献研究か実証研究か)
8. 研究基礎力の確認 研究テーマを分析するための基礎的能力を確認する
9. 研究計画書の骨子作成
10. 先行研究の渉猟方法
11. 先行研究の整理・取捨選択
12. 先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究の進め方
13. 先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究の進め方
14. 先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究の進め方
15. その他の先行研究に関する留意および確認
16. 研究計画書の詳細化、具体化および変更
17. 第一次目次の作成
18. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究への批判的分析
19. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究への批判的分析
20. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究への批判的分析
21. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論④ 先行研究への批判的分析
22. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論⑤ 先行研究への批判的分析
23. その他の目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論 先行研究への批判的分析
24. 第一次目次の修正(第二次目次の作成)

#### 修士論文のパーツ作成に関する指導

25. 先行研究のとりまとめ 研究テーマのキーとなる先行研究を確認する
26. キーとなる先行研究のより詳細な分析① 脚注などを含めた完全な理解
27. キーとなる先行研究のより詳細な分析② 脚注などを含めた完全な理解
28. キーとなる先行研究のより詳細な分析③ 脚注などを含めた完全な理解
29. 中間報告会へ向けた準備 予行練習指導
30. 中間報告会

### ●事前学習

前回の講義の不足分に対応しておくこと。

### ●事後学習

修正箇所を理解しておくこと。

### ●成績評価

出席、授業での発言内容、作成レジュメの内容等で総合的に評価する。

### ●テキスト

複数の候補を提示した上で、受講者と相談の上、決定する。

### ●参考書・参考資料等

使用しているテキストに関連したものを講義時に指示する。

### ●備考

特になし。

## 地域計量分析特別演習 II

(通年/4単位)

駒木 泰

### ●テーマ

計量経済学による地域経済のモデル化と経済分析 (修士論文の作成)

### ●授業概要

特別演習 I での成果を前提に、地域経済を対象とした分析モデルの作成・パラメータ推定を行い、地域経済に対する示唆を考える。第1に、関連文献の収集、データの収集・整理を引き続き行う。第2に、経済理論をベースにして、地域経済を視点とする分析モデルを明確に提示する。第3に、統計ソフトウェアを用いてモデルの作成・パラメータ推定に従事する。第4に、地域経済に対して何らかの示唆を与えることができるように、作成されたモデルや推定結果の解釈を行う。このような段階を通じて、分析視点、推定された分析モデル、推定方法、結果が与える示唆等について新たな知見を見出すことが要求される。

### ●到達目標

特別演習 II では、研究テーマの設定とその具体化をさらに進め、最終稿の完成を目指す。修士論文を作成するための骨子をさらに練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の完全理解と精査に時間を割き、修士論文として水準を担保できるような草稿の練り直しを複数にわたっておこない、最終稿の完成へ向けた論文指導をおこなう。

### ●授業計画

#### 完全目次完成への指導 (さらなる先行研究の理解と精査)

1. ガイダンス (特別演習 I までの確認作業と今後の方針について)
2. 全体構想と草稿の執筆および小見出し付き目次の作成
3. 小見出しの確認による先行研究の取捨選択と再考
4. 先行研究一覧の作成
5. 小見出しの再考と論点整理および絞り込み

#### 修士論文骨子作成への指導

6. 小見出し付き研究ノートの作成
  7. 研究ノートから章、節のタイトル付け
  8. 「序論」「結論」の整理。主題に関する再考と確認
- #### 修士論文第一次、第二次、第三次草稿の完成へ向けた指導
9. 第一次草稿の完成① 第一次草稿執筆のポイント
  10. 第一次草稿の完成② 第一次草稿と研究ノート (小見出し) の「整合性」
  11. 第一次草稿の完成③ 第一次草稿と研究ノート (章、節) の整合性
  12. 第一次草稿の完成④ 第一次草稿の再考
  13. 第一次草稿の論理一貫性のチェック
  14. 第二次草稿の完成① 第二次草稿執筆のポイント
  15. 第二次草稿の完成② 第二次草稿と第一次草稿との比較検討 (どこをどのように手直したか)
  16. 第二次草稿の完成③ 第二次草稿の論理一貫性のチェック (「序論」「結論」との整合性再考)
  17. 第二次草稿の完成④ 第二次草稿全体の確認と演習 (ゼミ) 内報告の実施 (修士論文指導者からの意見聴取)
  18. 第二次草稿の文章の言い回し、誤字脱字修正 (研究論文らしい体裁の確認)
  19. 第三次草稿の完成① 第三次草稿の手直し
  20. 第三次草稿の完成② 第三次草稿と第二次草稿との比較検討 (どこをどのように手直したか)
  21. 第三次草稿の完成③ 第三次草稿の論理一貫性のチェック (加筆修正部分と論旨の一貫性が保たれているか)
  22. 第三次草稿の完成④ 第三次草稿全体の確認と演習 (ゼミ) 内報告の実施 (修士論文としての水準にあるか)

#### 最終稿の完成へ向けた指導

23. 図表の整理、貼り付け 図表の元となった一次資料の確認
24. 本論挿入注の精査① 先行研究における孫引き文献などの確認
25. 本論挿入注の精査② 過失による剽窃の回避
26. 引用にかかる出所、出典の確認 適当な場所に適当な挿入注がおこなわれているか。
27. 参考文献一覧の作成
28. 論文タイトルの最終決定
29. 論文要旨の作成
30. 最終稿の完成および審査会準備

### ●事前学習

前回の講義の不足分に対応しておくこと。

### ●事後学習

修正箇所を理解しておくこと。

### ●成績評価

修士論文の内容・口頭試問で総合的に評価する。

### ●テキスト

複数の候補を提示した上で、受講者と相談の上、決定する。

### ●参考書・参考資料等

使用しているテキストに関連したものを講義時に指示する。

### ●備考

特になし。

## 環境科学論特別演習 I

(通年/4単位)

稲垣 陽介

### ●テーマ

環境経済学・金融工学・経済物理学・社会動学にかんする問題の統計物理学的手法による定式化と分析 (基礎)

### ●授業概要

地球環境問題に関連する天然資源の経済学をはじめ経済学・金融工学・経済物理学・社会動学に関する問題を、線形方程式・反復法、最適化、非線形方程式、近似法、数値積分・微分、モンテカルロ・シミュレーション法、擬モンテカルロ法、有限差分法、関数方程式の射影法、数値動的計画法、正則摂動法、漸近法などの数値的・解析的手法、ならびに統計物理学的手法により定式化し、分析する。

### ●到達目標

特別演習 I では、研究テーマの設定とその具体化を進め、先行研究に関する分析および理解を深めることを目標としている。修士論文を作成するための骨子を練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の分析に時間を割くことで、特別演習 II におけるより具体的な論文指導の基盤作りを目指す。

### ●授業計画

#### 研究計画の立案および変更に関する指導

1. 問題関心および問題意識の整理
  2. 問題関心および問題意識の具体化
  3. 問題関心および問題意識の方向性
  4. 問題関心および問題意識から具体的なテーマの設定
  5. 研究テーマの妥当性 (オリジナリティの有無)
  6. 研究目的・研究動機 (学祭性の有無)
  7. 研究方法の確認 研究テーマを分析するための方法を確認する (例: 文献研究か実証研究か)
  8. 研究基礎力の確認 研究テーマを分析するための基礎的能力を確認する
  9. 研究計画書の骨子作成
  10. 先行研究の渉猟方法
  11. 先行研究の整理・取捨選択
  12. 先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究の進め方
  13. 先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究の進め方
  14. 先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究の進め方
  15. その他の先行研究に関する留意および確認
  16. 研究計画書の詳細化、具体化および変更
  17. 第一次目次の作成
  18. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究への批判的分析
  19. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究への批判的分析
  20. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究への批判的分析
  21. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論④ 先行研究への批判的分析
  22. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論⑤ 先行研究への批判的分析
  23. その他の目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論 先行研究への批判的分析
  24. 第一次目次の修正 (第二次目次の作成)
- #### 修士論文のパーツ作成に関する指導
25. 先行研究のとりまとめ 研究テーマのキーとなる先行研究を確認する
  26. キーとなる先行研究のより詳細な分析① 脚注などを含めた完全な理解
  27. キーとなる先行研究のより詳細な分析② 脚注などを含めた完全な理解
  28. キーとなる先行研究のより詳細な分析③ 脚注などを含めた完全な理解
  29. 中間報告会へ向けた準備 予行練習指導
  30. 中間報告会

### ●事前学習

前回の演習において確認した課題 (データ収集・分析等) をおこない、その結果を整理し説明できるように準備しておく。その過程で生じた質問事項を整理しておく。

### ●事後学習

演習において確認した課題 (データ収集・分析等) をおこない、その結果を整理し次回演習において説明できるように準備しておく。その過程で生じた質問事項を整理しておく。

### ●成績評価

毎回課されるプログラミング課題により評価する。

### ●テキスト

K. L. Judd, "Numerical Methods in Economics", The MIT Press (1998)

### ●参考書・参考資料等

\* K. N. King, "C Programming: A Modern Approach", W. W. Norton (2008)

\* F. S. Acton, "Numerical Methods that Work", The Mathematical Association of America (1999)

\* R. N. Mantegna and H. E. Stanley, "Introduction to Econophysics", Cambridge University Press (2007)

- \* J. Voit, "The Statistical Mechanics of Financial Markets", Springer (2010)
- \* M. J. Miranda and P. L. Fackler, "Applied Computational Economics and Finance", The MIT Press (2002)
- \* P. Brandimarte, "Numerical Methods in Finance and Economics", Wiley-Interscience (2006)

●備考

UNIX 互換の計算機プログラミング環境を日常的に使用できることが求められる。

## 環境科学論特別演習 II

(通年/4 単位)

稲垣 陽介

●テーマ

環境経済学・金融工学・経済物理学・社会動学にかんする問題の統計物理学的手法による定式化と分析 (応用)

●授業概要

地球環境問題に関連する天然資源の経済学をはじめ経済学・金融工学・経済物理学・社会動学に関する問題を、線形方程式・反復法、最適化、非線形方程式、近似法、数値積分・微分、モンテカルロ・シミュレーション法、擬モンテカルロ法、有限差分法、関数方程式の射影法、数値動的計画法、正則摂動法、漸近法などの数値的・解析的手法、ならびに統計物理学的手法により定式化し、分析する。

●到達目標

特別演習 II では、研究テーマの設定とその具体化をさらに進め、最終稿の完成を目指す。修士論文を作成するための骨子をさらに練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の完全理解と精査に時間を割き、修士論文として水準を担保できるような草稿の練り直しを複数にわたっておこない、最終稿の完成へ向けた論文指導をおこなう。

●授業計画

完全目次完成への指導 (さらなる先行研究の理解と精査)

1. ガイダンス (特別演習 I までの確認作業と今後の方針について)
2. 全体構想と草稿の執筆および小見出し付き目次の作成
3. 小見出しの確認による先行研究の取捨選択と再考
4. 先行研究一覧の作成
5. 小見出しの再考と論点整理および絞り込み

修士論文骨子作成への指導

6. 小見出し付き研究ノートの作成
7. 研究ノートから章、節のタイトル付け
8. 「序論」「結論」の整理。主題に関する再考と確認

修士論文第一次、第二次、第三次草稿の完成へ向けた指導

9. 第一次草稿の完成① 第一次草稿執筆のポイント
10. 第一次草稿の完成② 第一次草稿と研究ノート(小見出し)の整合性
11. 第一次草稿の完成③ 第一次草稿と研究ノート(章、節)の整合性
12. 第一次草稿の完成④ 第一次草稿の再考
13. 第一次草稿の論理一貫性のチェック
14. 第二次草稿の完成① 第二次草稿執筆のポイント
15. 第二次草稿の完成② 第二次草稿と第一次草稿との比較検討 (どこをどのように手直したか)
16. 第二次草稿の完成③ 第二次草稿の論理一貫性のチェック (「序論」「結論」との整合性再考)
17. 第二次草稿の完成④ 第二次草稿全体の確認と演習 (ゼミ) 内報告の実施 (修士論文指導者からの意見聴取)
18. 第二次草稿の文章の言い回し、誤字脱字修正 (研究論文らしい体裁の確認)
19. 第三次草稿の完成① 第二次草稿の手直し
20. 第三次草稿の完成② 第三次草稿と第二次草稿との比較検討 (どこをどのように手直したか)
21. 第三次草稿の完成③ 第三次草稿の論理一貫性のチェック (加筆修正部分と論旨の一貫性が保たれているか)
22. 第三次草稿の完成④ 第三次草稿全体の確認と演習 (ゼミ) 内報告の実施 (修士論文としての水準にあるか)

最終稿の完成へ向けた指導

23. 図表の整理、貼り付け 図表の元となった一次資料の確認
24. 本論挿入注の精査① 先行研究における孫引き文献などの確認
25. 本論挿入注の精査② 過失による剽窃の回避
26. 引用にかかる出所、出典の確認 適当な場所に適当な挿入注がおこなわれているか。
27. 参考文献一覧の作成
28. 論文タイトルの最終決定
29. 論文要旨の作成
30. 最終稿の完成および審査会準備

●事前学習

前回の演習において確認した課題 (データ収集・分析等) をおこない、その結果を整理し説明できるように準備しておく。その過程で生じた質問事項を整理しておく。

●事後学習

演習において確認した課題 (データ収集・分析等) をおこない、その結果を整理し次回の演習において説明できるように準備しておく。その過程で生じた質問事項を整理しておく。

●成績評価

毎回課されるプログラミング課題により評価する。

●テキスト

K. L. Judd, "Numerical Methods in Economics", The MIT Press (1998)

●参考書・参考資料等

- \* K. N. King, "C Programming: A Modern Approach", W. W. Norton (2008)
- \* F. S. Acton, "Numerical Methods that Work", The Mathematical Association of America (1999)
- \* R. N. Mantegna and H. E. Stanley, "Introduction to Econophysics", Cambridge University Press (2007)
- \* J. Voit, "The Statistical Mechanics of Financial Markets", Springer (2010)

\* M. J. Miranda and P. L. Fackler, "Applied Computational Economics and Finance", The MIT Press (2002)

\* P. Brandimarte, "Numerical Methods in Finance and Economics", Wiley-Interscience (2006)

●備考

UNIX 互換の計算機プログラミング環境を日常的に使用できることが求められる。

## 環境社会論特別演習 I

(通年/4 単位)

北構 太郎

●テーマ

環境社会に関する研究テーマと、結論に到達するために必要な研究項目を確定したうえで、研究をおこなう。

●授業概要

環境社会に関する修士論文を完成させることを目標とする。まず研究テーマと研究計画を確定したうえで、論文作成に必要な資料収集と整理について助言をおこない、必要な場合には文献の講読をおこなう。

●到達目標

特別演習 I では、研究テーマの設定とその具体化を進め、先行研究に関する分析および理解を深めることを目標としている。修士論文を作成するための骨子を練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の分析に時間を割くことで、特別演習 II におけるより具体的な論文指導の基盤作りを目指す。

●授業計画

### 研究計画の立案および変更に関する指導

1. 問題関心および問題意識の整理
2. 問題関心および問題意識の具体化
3. 問題関心および問題意識の方向性
4. 問題関心および問題意識から具体的テーマの設定
5. 研究テーマの妥当性 (オリジナリティの有無)
6. 研究目的・研究動機の妥当性 (学祭性の有無)
7. 研究方法の確認 研究テーマを分析するための方法を確認する (例: 文献研究か実証研究か)
8. 研究基礎力の確認 研究テーマを分析するための基礎的能力を確認する
9. 研究計画書の骨子作成
10. 先行研究の渉猟方法
11. 先行研究の整理・取捨選択
12. 先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究の進め方
13. 先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究の進め方
14. 先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究の進め方
15. その他の先行研究に関する留意および確認
16. 研究計画書の詳細化, 具体化および変更
17. 第一次目次の作成
18. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究への批判的分析
19. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究への批判的分析
20. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究への批判的分析
21. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論④ 先行研究への批判的分析
22. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論⑤ 先行研究への批判的分析
23. その他の目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論 先行研究への批判的分析
24. 第一次目次の修正 (第二次目次の作成)

### 修士論文のパーツ作成に関する指導

25. 先行研究のとりまとめ 研究テーマのキーとなる先行研究を確認する
26. キーとなる先行研究のより詳細な分析① 脚注などを含めた完全な理解
27. キーとなる先行研究のより詳細な分析② 脚注などを含めた完全な理解
28. キーとなる先行研究のより詳細な分析③ 脚注などを含めた完全な理解
29. 中間報告会へ向けた準備 予行練習指導
30. 中間報告会

●事前学習

修士論文のテーマと研究計画を, できるだけ具体的に準備しておくこと。

●事後学習

収集中の資料やデータの読解を継続すること。

●成績評価

到達目標の達成度で評価する。

●テキスト

文献の講読が必要とされる場合は, その際に指示する。

●参考書・参考資料等

演習時に指示する。

●備考

特になし。

## 環境社会論特別演習Ⅱ

(通年/4単位)

北構 太郎

### ●テーマ

継続中の研究を推進し、最終的に修士論文として完成させる。

### ●授業概要

修士論文を執筆し完成させるために、各自の進行状況に合わせて助言をおこない、また論文のチェックをおこなう。

### ●到達目標

特別演習Ⅱでは、研究テーマの設定とその具体化をさらに進め、最終稿の完成を目指す。修士論文を作成するための骨子をさらに練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の完全理解と精査に時間を割き、修士論文として水準を担保できるような草稿の練り直しを複数にわたっておこない、最終稿の完成へ向けた論文指導をおこなう。

### ●授業計画

#### 完全目次完成への指導（さらなる先行研究の理解と精査）

1. ガイダンス（特別演習Ⅰまでの確認作業と今後の方針について）
2. 全体構想と草稿の執筆および小見出し付き目次の作成
3. 小見出しの確認による先行研究の取捨選択と再考
4. 先行研究一覧の作成
5. 小見出しの再考と論点整理および絞り込み

#### 修士論文骨子作成への指導

6. 小見出し付き研究ノートの作成
7. 研究ノートから章、節のタイトル付け
8. 「序論」「結論」の整理。主題に関する再考と確認

#### 修士論文第一次、第二次、第三次草稿の完成へ向けた指導

9. 第一次草稿の完成① 第一次草稿執筆のポイント
10. 第一次草稿の完成② 第一次草稿と研究ノート（小見出し）の整合性
11. 第一次草稿の完成③ 第一次草稿と研究ノート（章、節）の整合性
12. 第一次草稿の完成④ 第一次草稿の再考
13. 第一次草稿の論理一貫性のチェック
14. 第二次草稿の完成① 第二次草稿執筆のポイント
15. 第二次草稿の完成② 第二次草稿と第一次草稿との比較検討（どこをどのように手直したか）
16. 第二次草稿の完成③ 第二次草稿の論理一貫性のチェック（「序論」「結論」との整合性再考）
17. 第二次草稿の完成④ 第二次草稿全体の確認と演習（ゼミ）内報告の実施（修士論文指導者からの意見聴取）
18. 第二次草稿の文章の言い回し、誤字脱字修正（研究論文らしい体裁の確認）
19. 第三次草稿の完成① 第二次草稿の手直し
20. 第三次草稿の完成② 第三次草稿と第二次草稿との比較検討（どこをどのように手直したか）
21. 第三次草稿の完成③ 第三次草稿の論理一貫性のチェック（加筆修正部分と論旨の一貫性が保たれているか）
22. 第三次草稿の完成④ 第三次草稿全体の確認と演習（ゼミ）内報告の実施（修士論文としての水準にあるか）

#### 最終稿の完成へ向けた指導

23. 図表の整理、貼り付け 図表の元となった一次資料の確認
24. 本論挿入注の精査① 先行研究における孫引き文献などの確認
25. 本論挿入注の精査② 過失による剽窃の回避
26. 引用にかかる出所、出典の確認 適当な場所に適当な挿入注がおこなわれているか。
27. 参考文献一覧の作成
28. 論文タイトルの最終決定
29. 論文要旨の作成
30. 最終稿の完成および審査会準備

### ●事前学習

論文の進行状況を確認しておくこと。

### ●事後学習

助言を受けた事項や添削を受けた箇所に関する作業をおこなう。

### ●成績評価

修士論文の完成度によって評価する。

### ●テキスト

使用しない。

### ●参考書・参考資料等

演習時に指示する。

### ●備考

特になし。

## フランス思想論特別演習Ⅰ

(通年/4単位)

工藤 孝史

### ●テーマ

デカルト主義の意義を「言語問題」からとらえ直すことを基本テーマとする。受講者と相談のうえテキストを選び、講読を通して修士論文執筆に必要な基礎知識を身につける。

### ●授業概要

主にルネ・デカルトの哲学に端を発する哲学／思想問題（例えば心身問題など）を中心に勉強します。どんな哲学者・思想家を扱うかは受講生と相談の上決めます。

### ●到達目標

特別演習Ⅰでは、研究テーマの設定とその具体化を進め、先行研究に関する分析および理解を深めることを目標としている。修士論文を作成するための骨子を練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の分析に時間を割くことで、特別演習Ⅱにおけるより具体的な論文指導の基盤作りを目指す。

### ●授業計画

#### 研究計画の立案および変更に関する指導

1. 問題関心および問題意識の整理
2. 問題関心および問題意識の具体化
3. 問題関心および問題意識の方向性
4. 問題関心および問題意識から具体的テーマの設定
5. 研究テーマの妥当性（オリジナリティの有無）
6. 研究目的・研究動機（学祭性）の有無
7. 研究方法の確認 研究テーマを分析するための方法を確認する（例：文献研究か実証研究か）
8. 研究基礎力の確認 研究テーマを分析するための基礎的能力を確認する
9. 研究計画書の骨子作成
10. 先行研究の渉猟方法
11. 先行研究の整理・取捨選択
12. 先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究の進め方
13. 先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究の進め方
14. 先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究の進め方
15. その他の先行研究に関する留意および確認
16. 研究計画書の詳細化、具体化および変更
17. 第一次目次の作成
18. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論① 先行研究への批判的分析
19. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論② 先行研究への批判的分析
20. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論③ 先行研究への批判的分析
21. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論④ 先行研究への批判的分析
22. 目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論⑤ 先行研究への批判的分析
23. その他の目次に沿った先行研究の内容に関する報告と議論 先行研究への批判的分析
24. 第一次目次の修正（第二次目次の作成）

#### 修士論文のパーツ作成に関する指導

25. 先行研究のとりまとめ 研究テーマのキーとなる先行研究を確認する
26. キーとなる先行研究のより詳細な分析① 脚注などを含めた完全な理解
27. キーとなる先行研究のより詳細な分析② 脚注などを含めた完全な理解
28. キーとなる先行研究のより詳細な分析③ 脚注などを含めた完全な理解
29. 中間報告会へ向けた準備 予行練習指導
30. 中間報告会

### ●事前学習

前もって配布するテキストを読んで疑問点を整理しておいてください。

### ●事後学習

演習での議論の要点をレポート形式で報告してください。

### ●成績評価

平常点 100%（演習への取り組み、レポートの内容等を総合的に評価します）

### ●テキスト

受講生と相談の上決めます。

### ●参考書・参考資料等

その都度必要に応じて指示します。

### ●備考

特になし。

## フランス思想論特別演習Ⅱ (通年/4単位)

工藤 孝史

### ●テーマ

デカルト主義の意義を「言語問題」からとらえ直すことを基本テーマとする。特別演習Ⅰで学んだ内容を発展させ修士論文を完成させる。

### ●授業概要

特別演習Ⅰの発展形です。主にルネ・デカルトの哲学思想に端を発する哲学/思想問題(例えば心身問題など)を中心に勉強します。特別演習Ⅰで選択したテーマを中心に、テキスト講読の形で授業を進めます。

### ●到達目標

特別演習Ⅱでは、研究テーマの設定とその具体化をさらに進め、最終稿の完成を目指す。修士論文を作成するための骨子をさらに練り上げること、またそのためにより多くの先行研究の完全理解と精査に時間を割き、修士論文として水準を担保できるような草稿の練り直しを複数にわたっておこない、最終稿の完成へ向けた論文指導をおこなう。

### ●授業計画

#### 完全目次完成への指導(さらなる先行研究の理解と精査)

1. ガイダンス(特別演習Ⅰまでの確認作業と今後の方針について)
2. 全体構想と草稿の執筆および小見出し付き目次の作成
3. 小見出しの確認による先行研究の取舍選択と再考
4. 先行研究一覧の作成
5. 小見出しの再考と論点整理および絞り込み

#### 修士論文骨子作成への指導

6. 小見出し付き研究ノートの作成
7. 研究ノートから章、節のタイトル付け
8. 「序論」「結論」の整理。主題に関する再考と確認

#### 修士論文第一次、第二次、第三次草稿の完成へ向けた指導

9. 第一次草稿の完成① 第一次草稿執筆のポイント
10. 第一次草稿の完成② 第一次草稿と研究ノート(小見出し)の整合性
11. 第一次草稿の完成③ 第一次草稿と研究ノート(章、節)の整合性
12. 第一次草稿の完成④ 第一次草稿の再考
13. 第一次草稿の論理一貫性のチェック
14. 第二次草稿の完成① 第二次草稿執筆のポイント
15. 第二次草稿の完成② 第二次草稿と第一次草稿との比較検討(どこをどのように手直したか)
16. 第二次草稿の完成③ 第二次草稿の論理一貫性のチェック(「序論」「結論」との整合性再考)
17. 第二次草稿の完成④ 第二次草稿全体の確認と演習(ゼミ)内報告の実施(修士論文指導者からの意見聴取)
18. 第二次草稿の文章の言い回し、誤字脱字修正(研究論文らしい体裁の確認)
19. 第三次草稿の完成① 第二次草稿の手直し
20. 第三次草稿の完成② 第三次草稿と第二次草稿との比較検討(どこをどのように手直したか)
21. 第三次草稿の完成③ 第三次草稿の論理一貫性のチェック(加筆修正部分と論旨の一貫性が保たれているか)
22. 第三次草稿の完成④ 第三次草稿全体の確認と演習(ゼミ)内報告の実施(修士論文としての水準にあるか)

#### 最終稿の完成へ向けた指導

23. 図表の整理、貼り付け 図表の元となった一次資料の確認
24. 本論挿入注の精査① 先行研究における孫引き文献などの確認
25. 本論挿入注の精査② 過失による剽窃の回避
26. 引用にかかる出所、出典の確認 適当な場所に適当な挿入注がおこなわれているか。
27. 参考文献一覧の作成
28. 論文タイトルの最終決定
29. 論文要旨の作成
30. 最終稿の完成および審査会準備

### ●事前学習

前もって配布するテキストを読んで疑問点を整理しておいてください。

### ●事後学習

演習での議論の要点をレポート形式で報告してください。

### ●成績評価

平常点 100% (演習への取り組み、レポートの内容等を総合的に評価します)

### ●テキスト

受講生と相談の上決めます。

### ●参考書・参考資料等

その都度必要に応じて指示します。

### ●備考

特になし。